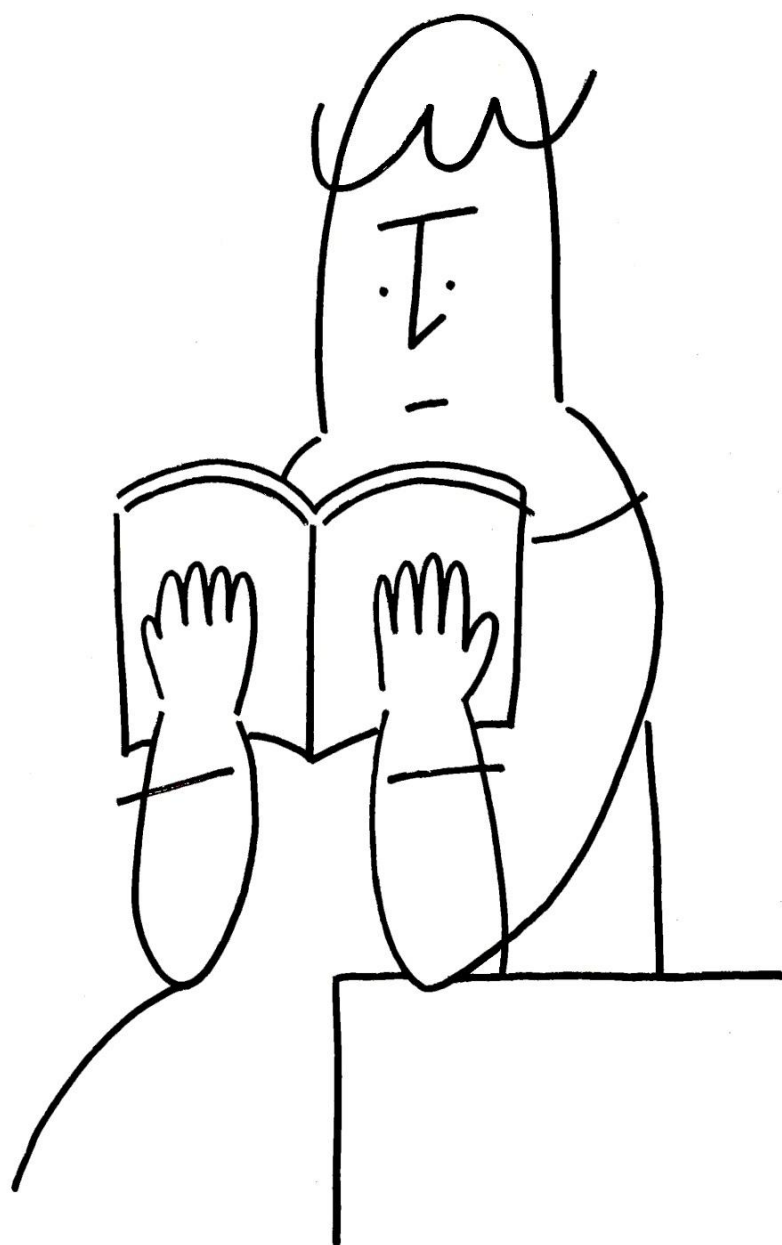


実践教材集「東住吉」

☆2025.3 No.001☆



「授業と教材について」を考える

目 次

はじめに.....	1
小学部の概要.....	2
小学部の実践・教材.....	4
中学部の概要.....	15
中学部の実践・教材.....	17
高等部の概要.....	31
高等部の実践・教材.....	33
訪問教育の概要.....	51
訪問教育の実践・教材.....	53
おわりに.....	62

は じ め に

本校は、平成 25 年 4 月、旧矢田小学校を改築し、大阪市立東住吉支援学校として開校しました。平成 28 年 4 月には大阪府へ移管され、大阪府立東住吉支援学校と校名が改められました。「肢体不自由教育部門」と「知的障がい教育部門」の 2 部門を併設しており、両部門とも、小学部・中学部・高等部の 3 学部を設置しています。

教職員は、日ごろより、学習指導要領に則って、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりに励んでいます。校内研修では、研究授業及び研究協議を通して、授業改善に向けての意見交換や情報共有を続けています。

さて、肢体不自由教育部門では、今年度より隔年で、実践教材集『東住吉』を発行する運びとなりました。教職員全員が、一人ひとつの教材・教具を紹介し、授業での活用方法や改善点を記載しています。教職員間で教材・教具を気軽に共有して自身の授業に取り入れたり、教材・教具にさらに工夫を加えて活用の幅を広げることができればと思っています。また、小学部・中学部・高等部 3 学部・12 年間を見通して、子ども一人ひとりの障がいの状況や発達段階、生活年齢に応じた指導・支援の工夫を積み重ねていきたいと思います。

今後の課題としては、手作り教材を含めた具体物と、様々な ICT 機器を、授業の中でどのように組み合わせ有効活用していくかの工夫が必要だと考えています。様々な年齢、経験年数の教職員が、お互いに信頼感、同僚性を持って切磋琢磨しながら、支援教育の専門性や、学校全体の授業力を向上させていく学校でありたいと思います。

まだまだ改善すべきところも多々ありますが、何卒ご高覧いただき、忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、関係機関の皆さまには日ごろより温かなご支援、ご理解を賜り心より感謝しております。これからも引き続き、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和 7 年 2 月吉日

大阪府立東住吉支援学校長 西浦 由夏

小学部の概要

1. 在籍児童数 計19名（うち訪問2名）

（令和6年12月1日現在）

学 年	通 学	訪 問	合 計
1 年	2名		2名
2 年	3名		3名
3 年	3名		3名
4 年	3名		3名
5 年	5名	1名	6名
6 年	1名	1名	2名

2. 学習編成

小学部には19名（うち訪問2名）の児童が在籍している。学年で教科学習、自立活動、縦割りで課題別グループ学習に取り組んでいる。集会や道徳などは小学部全体で行っている。また、高学年（4・5・6年生）合同で学習する学部活動の時間も設けている。

○「教科学習」

【ことば・かず】【おんがく】【ずこう】【たいいく】【せいかつ】

○「グループ学習」

【もも（うんどう）】

- ・さまざまな運動や感覚遊びを通して、身体を動かすことの楽しさを知る。
- ・さまざまな運動を通して、バランスのとり方や身体の支え方を知る。
- ・運動や感覚遊びなどの活動を通して、自分の気持ちを表現する。

【チェリー（コミュニケーション）】

- ・問いかけや呼びかけに対して、声や身振りで応えることができる。
- ・お話を聞くことや教員や友だちとのやりとりを通して、身近な物の名前や、動きや状態を表す言葉を理解する。
- ・個々に応じた表現方法で、自ら関わろうとする。
- ・友だちや教員と一緒に学習する中で、興味関心の幅を広げる。

【バナナ（かんかく）】

- ・感覚遊びを通して、刺激を受け入れる力を養う。
- ・感覚遊びの中で、快・不快やもう一度やりたい気持ちなどを表現する。
- ・さまざまな感覚遊びを経験し、興味・関心の幅を広げる。

【キウイ（国語・算数）】

- ・経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付ける。
- ・書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む力を身に付ける。
- ・算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識技能を身に付ける。
- ・活動に見通しや期待感を持ち、主体的に学習に取り組む力を付ける。

3. 日課表

(下校時刻)

月 1、2年 13:15
 3～6年 15:15
 火・木 1～6年 15:15
 水 1～6年 13:15
 金 1～3年 13:15
 4～6年 15:15

	月	火	水	木	金
	自立活動				
1	自立活動				
2	教科学習	教科学習	個別課題学習	グループ学習 教科学習	教科学習
3	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動	自立活動
4	自立活動				
	自立活動				
	昼休み		昼休み 自立活動	昼休み	
5	教科学習	グループ学習		特別活動	教科学習
6	総合的な学習	グループ学習		道徳	総合的な学習
	自立活動			自立活動	

「ことばであそぼう・ぱっぴぷっぺぽん」

教科・授業名	ことば・かず
対象児童・生徒	小学部 4・5年 3名（実態により4・5年生を2グループに分けて学習）
ねらい	・繰り返しの言葉に興味を持って聞く。 ・「ぱっ」、「ぽーん」の言葉と活動を結びつける。
学習内容	① 絵本「ぱっぴぷっぺぽん」を読む。 ② 歌や掛け声に合わせて、ライトをつけ、ボールを飛ばす。
教材・教具の紹介 （工夫した点）	○「ぱっ」、「ぷっ」、「ぷっ」、「ぺっ」、「ぽん」の言葉に合わせた活動は何にするかを考えた。 ① 「ぱっ」はライトをつける。 ② 「ぽーん」はボールを飛ばす。 ③ 「ぷっ」、「ぷっ」、「ぺっ」は妙案浮かばず。 ① BD アダプターやウゴキングを使用した。 ・ライトは児童が見えやすいように光量のあるものや提示位置を考えた。 ② 「ぽーん」はゴムを使用してボールを飛ばした。 ・「ぽーん」が認識できるように、飛んだボールが当たると倒れる的を準備した。 ・つかみやすいボールを準備する。 ・的に当たるようにボールを離す位置とゴムの長さを調整した。
授業を終えて	・「ぱっ」、「ぽーん」を言うタイミングと児童の動きにずれが出てきたところがある。はじめの思いと活動していく中で意図することが微妙にずれたところがある。 ・何を大事にするか、ポイントが変わるなら変わるでよいから、その都度狙いを明確にすることが大事だと改めて思った。

「まぜまぜえのぐ」

教科・授業名	ずこう
対象児童・生徒	小学部 1・2・3年 8名
ねらい	・手指を動かして色を塗り広げることができる。 ・色が塗り広がる様子に注目することができる。 ・色の広がりや重なりを感じようとしている。
学習内容	① 絵の具を3色選ぶ。 ② 画用紙の点在了位置に絵の具をつける。 ③ 上からラミネートフィルムを重ねて置き、手指で押して色を広げる。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・色が塗り広がる様子に注目することができるように、透明のラミネートフィルムを使用した。 ・絵の具は、いろいろな素材に描くことができ、発色も良く、鮮やかな色彩表現ができるアクリル絵の具を使用した。 ・色の広がりや重なりを感じることができるよう、点在了位置に絵の具をつけるようにした。 ・ラミネートフィルムの上からでも絵の具の感触を感じることができるよう、アクリル絵の具は水に溶かさず、多めに画用紙につけるようにした。      
授業を終えて	・透明のラミネートフィルムを使用したことで、色が広がったり重なったりする様子に興味をもち、よく見ることでいた。 ・これまでの学習では、手や足に絵の具を直接付けて、ぬたくり遊びをしていたことで、今回、ラミネートフィルムの上から手指で押して色を塗り広げた際、手指に絵の具が付かないことに注目し、興味をもっている児童もいた。これまでの学びや経験が積み重なっている様子や自ら思考する様子が見られた。 ・姿勢を変えることが難しい児童は、ラミネートフィルムを重ねて置く場面で、色の広がりや重なり注目することが難しかった。手指を動かしながら注目することができるよう児童の姿勢や目線に合わせて書見台やICT等を活用する必要があった。

「スパイダーを使ってリトミックをしよう」

教科・授業名	おんがく
対象児童・生徒	小学部 2・3年 9名
ねらい	みんなと一緒に音楽に合わせて表現する楽しさを味わえるようにする。
学習内容	<リトミック>流れてくる音楽を聴き、それに合わせて身体を動かす。(歩く、速く歩く、ゆっくり歩く、ジャンプ、曲に合った動物の動きなど) 音楽が止まったときは動きを止める。 独歩、介助歩行、箱椅子座位など児童それぞれに合わせた姿勢で取り組む。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	○取り組みの経緯 音楽科の目標(小学部第1段階) - 音や音楽を聴いて、<u>自分なりに</u>表そうとする。 - 表現する音や音楽に<u>気付く</u>。 リトミックの際に、指導者がバギーを動かしたり、後ろから支えて歩いたりしている児童が、音楽を聴いたときにもっと自分の感じたことを表現するためには？ →スパイダーを使用するのはどうか。 ○実践～スパイダーを使ってリトミックをしよう～ ① バギーに乗っている児童 ゆったりとした曲のときは身体を大きくゆっくりと左右に動かす、速い曲は足をバタバタと動かす、曲が止まるとピタッと止まるなどの動きを自分で行うことができた。(自分でできた！とうれしそうな表情) ⇒ <u>自分なりに</u>を評価することができた。 ② 介助歩行の児童 音楽が流れると楽しそうにジャンプ！音楽が止まると、それに気付いて動きを止めることを繰り返し行うことができた。(笑顔で楽しそう！介助歩行で行っているときは、自分で止まることはなかった。) ⇒ <u>気付き</u>を評価することができた。
授業を終えて	・指導者の介助をなくし、一人で行えるようにしたことで、児童の音楽に対する気付きや、その気付きを表現する様子、方法がわかり、評価することができた。 ◆個別に取り組むことが多いスパイダーだが、授業の中で使用することで、「みんなと一緒に」、「自分で」を達成することができた。音楽だけでなく、体育や集団あそびなどいろいろな場面で取り入れられると考える。



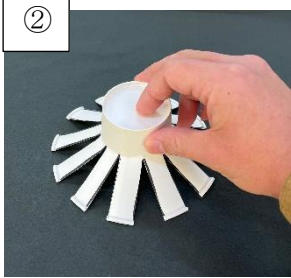
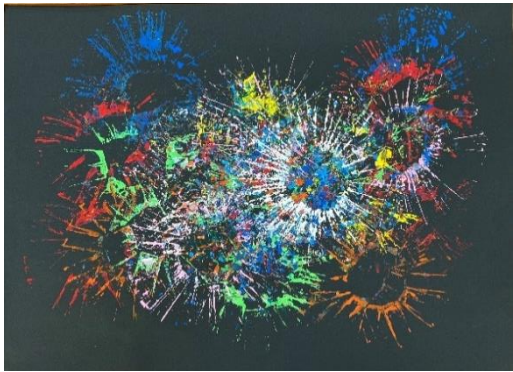
「おおきなかぶ」

教科・授業名	ことば・かず
対象児童・生徒	小学部 1・2・3年 8名
ねらい	・呼びかけに応えようとしたり、呼びかけようとしたりする。 ・絵本や具体物に注目したり、つかもうとしたりする。 ・絵本の読み聞かせや再現あそびの中で、声や身体の動きで気持ちを表現することができる。
学習内容	① 絵本や教員劇「おおきなかぶ」を見たり、聞いたりする。 ② 呼びかけに応えたり、友だちを呼んだりする。 ③ 小さなかぶを抜いたり、再現遊びで大きなかぶを抜いたりする。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	●小さなかぶ ・大きなかぶを抜く前の導入として、一人ずつ小さなかぶを抜いて達成感を感じられるようにした。 ・少しの力で抜けるかぶ、しっかり引っ張らないと抜けないかぶなど、児童に応じてかぶの抜きやすさを選べるようにした。抜ける手応えを感じられるように靴下の中に風船のかぶを仕込み、風船の大きさや靴下の素材を変え、抜きやすさを調整した。  ●大きなかぶ ・かぶに注目しやすく、抜けたことが分かりやすいように、かぶを机の上に置き、バックに黒のビニールをつるした。 ・かぶはバランスボールを白いビニール袋で包んだ。 ・みんなで引っ張ることで、かぶが少しずつ出てきて、最後にスッポンと抜ける感覚を感じられるように大きな袋状にしたビニール袋の中にかぶを入れ、袋口が少しずつ開いて出てくるようにした。  ●かぶが抜けた後は、「か〜ぶがぬけた、か〜ぶがぬけた、大成功！」と歌を歌い、抜けたことをみんなで喜び合った。
授業を終えて	・小さなかぶは活動の見通しがもちやすく、自分の力で抜くことができ、達成感を感じられやすいようだった。 ・大きなかぶは、曲に合わせてみんなで引っ張ることが楽しく、児童の笑顔が見られた。大きなかぶが抜けた時や目の前にかぶがきた時によく注目できていた。 ・抜けた後はいつも同じ歌を歌うことで、抜けたことをみんなで喜び合う雰囲気を作ることができた。

「学校探検をしよう」

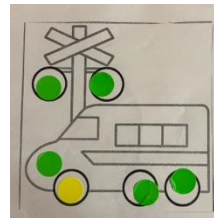
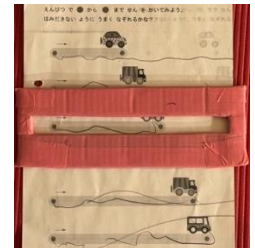
教科・授業名	せいかつ
対象児童・生徒	小学部 4・5年 8名
ねらい	・学校の施設、いろいろな特別教室を知る。 ・学校生活を支えている人を知る。 ・楽しく安心して遊んだり、生活したりできるようになる。
学習内容	① いつも利用している場所や特別教室を探検する。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	学校にはどんな施設や人がいるのか、どんな仕事をしているのかに興味、関心を持てるようにした。 ・正門から入った様子を写真とビデオに録り、学校を詳しく紹介した。門には、学校警備員室、入り口には管理作業員室があり、部屋の中の様子も紹介した。 ・事前学習として探検をする部屋(事務室、職員室、校長室、給食調理室など)を、モニターで見てから探検をした。校長室のソファに座ったり、部屋を歩いたりした。給食調理場は詳しく動画で見て探検した。 (校長室にて)
授業を終えて	授業を終えて、子どもたちは自分の学校により興味がわいていた。教師が紹介した以外の場所にも興味を持ち、普段トイレを利用しない子から「トイレってどんなの?」との質問がきた。職員室では教頭先生や他学部の先生とやり取りをした。校長室では、車いすやバギーから降りてソファに座ったり、校長先生の机のまわりを見たりと普段することができない探検ができ、笑顔をたくさん見ることができた。

「花火を描こう」

教科・授業名	ずこう
対象児童・生徒	小学部 4・5・6年 9名
ねらい	・線を意識しながらハサミで切ることができる。スタンプを押すようにして色をつけることができる。 ・画用紙に広がる絵の具の色が重なる様子を楽しむ。 ・色やスタンプのやり方等を自分で工夫し、意欲的に取り組んでいる。
学習内容	① 紙コップをハサミで切る。 ② 切ったところを広げた紙コップに選んだ絵の具をつける。 ③ スタンプを押すようにして画用紙に色をつける。 ④ 紙コップごと周りの人と交換し、ほかの色もつけていく。 ⑤ 最後に細く切った紙コップを使って、白の絵の具で色をつけて完成。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	①  ① 切るところがわかるように線を引いておく。使うはさみによって線を内側か外側に書く。 ②  ③  ②写真のようにスタンプを押すようにして色をつけていく。 ③最後の白色用の紙コップは事前に用意しておく。 作品例  
授業を終えて	はさみと絵の具を使った活動を取り入れることができた。最後に細く切った紙コップを使い、白い絵の具で色をつけたことによって、より花火らしく描くことができた。また、黒い画用紙を使用したのも絵の具の色が映えてよかった。スタンプを押すようにして色をつけていく際は、持ち手をつけてもよかったかもしれない。

「個別課題学習」

教科・授業名	自立活動
対象児童・生徒	小学部 1年 1名
ねらい	- 課題に見通しをもち、自分から取り組もうとする。 - 成功体験を重ね、達成感を味わう。
学習内容	①課題選び（選ぶ、伝える。） ②課題学習（a.ひらがな、b.線引き、c.シール貼り、d.洗濯ばさみ、e.ブロックつなぎ）
教材・教具の紹介 （工夫した点）	①課題選び 写真カードをボードに貼り付けて提示することで、課題に見通しをもてるようにした。また、選んだ写真カードは教員に渡すように促した。 ②課題学習 a.ひらがな…文字盤のひらがなを指差しする練習を行った。興味をもって取り組めるよう、題材には好きなキャラクターや身近な物の名前を用いた。また、ひらがなカードを自分の名前に並び替える練習も行った。 b.線引き…線を引く場所を注目し、ペン先がずれにくいよう、溝をつけたボードを使用した。また、ペンを握りやすいよう、クリップを装着した。 c.シール貼り…児童がシールをつまみやすいよう、大きいサイズのものを使用した。シールを貼る位置が分かるよう、台紙にも大きな○があるものを使用した。 d.洗濯ばさみ…洗濯ばさみのつまむ場所がわかりやすいよう、目印にシールを貼り付けた。本児が興味をもてるよう、洗濯ばさみが猫のひげになるようにした。 e.ブロックつなぎ…右手優位な児童が左手を使う機会を増やすために取り組んだ。自分から左手を出し、ブロックが動かないよう抑えようとする姿が見られた。
授業を終えて	①写真カードを見て見通しをもち、提示された課題に意欲的に取り組むことが増えた。また、選んだ写真カードを教員に手渡すことで、カードを使うコミュニケーションの経験ができた。 ②年度当初は自信がもてないことや、できないと感じたことをそれ以上しようとしないことがあった。個別課題学習では、児童の「やってみたい」、「できた」という気持ちを大切に、課題を設定して取り組んできた。成功体験を重ねることで、少し難しい課題にも落ち着いて取り組む様子が見られるようになってきた。



「おはなしの世界～おむすびころりん～」

教科・授業名	グループ学習
対象児童・生徒	小学部 パナナグループ 6名
ねらい	・感覚遊びの中で様々な刺激を経験し、感じたことを伝える。
学習内容	① PPS スイッチを付けた穴におむすびを転がす。 ② 黒いビニールで作った穴に入る。 ③ ローリングシーソーやロッキングチェア、シーソー板、ボールプールで揺れる。 ④ 宝箱を開け、部屋を暗くし、中に入っているミラーボールの光を楽しむ。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	○聴覚や視覚、触覚、平衡感覚などへの様々な刺激を経験できるようにし、それぞれの表出を引き出すようにした。 ①PPS スイッチを付けた穴におむすびを転がす＜聴覚、触覚など＞ 穴の先に PPS スイッチのセンサーを置き、感度を上げる。おむすび(紙ボール)を転がすことでスイッチから「♪おむすびころりん～」のフレーズが鳴る。 ②黒いビニールで作った穴に入る＜視覚、聴覚など＞ 黒いビニールで筒を作り、児童を囲む。どの刺激への表出かがわかるように、視界の変化、ビニールのガサガサ音、掛け声など、刺激を一つずつ増やすようにする。 ② ローリングシーソーやロッキングチェアなどで揺れる＜触覚、平衡感覚など＞ ローリングシーソーやロッキングチェアに空気を抜いたバランスボールやクッションを入れて姿勢を安定させる。臥位で取り組む児童は、シーソー板に畳とエアレックスマットを乗せたもので揺れを楽しむ。 ④宝箱を開け、部屋を暗くし、中に入っているミラーボールの光を楽しむ＜視覚＞ コンセントをつなぐ際に大きな起動音声が鳴るため、授業前につないでおく。箱を開けると光が部屋中に一気に広がる。開け閉めをしても楽しめる。
授業を終えて	・どの児童も様々な表出をしていた。また、同じ活動でも驚きから徐々に心地よさへと表出が変わるなど、感じ方の変化がみられることもあった。 ・同じ流れで繰り返し取り組む中で、次に行う教材・教具に視線を向けたり、揺れの活動が終わった後に天井を見上げたりと、期待感を示すような表出も出てきた。

「係活動」

教科・授業名	自立活動
対象児童・生徒	小学部 4年 1名
ねらい	・タッチペンを使って iPad の操作に親しむ。
学習内容	① クラスの出欠状況を確認する。 ② タッチペンを使って、iPad 画面上の出席者に○をつける。 ③ 出席者の人数を伝える。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	○教材について  ・iPad アプリ「つくるんです」を使用 ・顔写真と分割画面を使用し、クラス児童の顔にタッチすると、○の表示と効果音が出るように設定した。 ○取り組みについて ・自分で操作がしやすいように支援を行った。 iPad の位置をフレキシブル棒で固定する。 自助具を使ってタッチペンを操作することができるようにする。   〈自助具とタッチペン〉 〈アプリの画面〉
授業を終えて	(児童の様子) ・最初はタッチすることが難しい様子が見られたが、本児が体を前後に動かす工夫を行うなかで、スムーズに出席調べをすることができるようになってきた。 ・本児が自分の係仕事として、自ら取り組む場面も見られた。 (アプリについて) ・タッチペンがうまく作動しないときもあり、改善が必要である。活動や課題に応じ、写真やイラストを変えることで、他の児童や場面にも活用することができると考える。

「ことばであそぼう・しりとりがだいすきなおうさま」

教科・授業名	ことば・かず
対象児童・生徒	小学部 4・5年 5名（実態により4・5年生を2グループに分けて学習）
ねらい	・言葉を表す音や文字に触れる。 ・しりとり言葉を考えたり、絵や文字を見て選んだりする。 ・文字のマッチングをする。 ・濁音、半濁音、拗音、促音、長音の言葉を読んだり、文字を並べて言葉を作ったりする。
学習内容	① 絵本「しりとりがだいすきなおうさま」を読み、絵本の中の絵、言葉でしりとりをする。 ② いろいろな食べ物からしりとりになるようにカードを選び、王様の口に入れる。王様の口に入れるときに、言葉の最後の文字を取り、次のしりとりの手がかりとする。 ・食べ物の名前を聞いて絵を探す。 ・文字を見てその文字から始まる食べ物を探す。 ③ バラバラの文字を並べ替えて絵カードの言葉を作る。
教材・教具の紹介 （工夫した点）	○食べ物を王様の口に入れると、「おいしい」「しりとりになってない」のどちらかの声をビッグマックで流すことで、しりとりになっているかどうか子どもたちに、楽しくわかりやすく伝えた。 ○興味関心が持続するように、毎時間いろいろな食べ物カードを提示した。最初は身近で知っている食べ物を提示したが、だんだん文字に意識がむくようになってきたため、身近ではない食べ物も準備し、始まりの文字から探すように促した。 ○文字に関して、児童の実態に合わせて絵カードの言葉を作った。 ・バラバラの文字を、見本と同じようにマッチングして並べる。 ・促音の言葉をバラバラのひらがなを正しく並べ替える。 ・そうめんなど「う」「お」のどちらが入るか考える。
授業を終えて	・最初は食べ物の名前を聞き絵カードを探していたが、文字に意識がむくようになり、知らない食べ物でも、文字とマッチングさせながら探すことができた。 ・ひらがなを一文字ずつマッチングさせながら並べる、促音や長音の言葉を一文字ずつバラバラにしたものを正しく並べる等、児童の実態に合わせた課題に取り組むことができた。

「よびかけてみよう」

教科・授業名	おなはし
対象児童・生徒	小学部 1・2年 6名
ねらい	・指導者の呼びかけに気づき、応える。 ・指導者の提示したものに気づき、注目したり、触ろうとしたりする。
学習内容	① 「おべんとうバス」の読み聞かせを聞く。 ② 具体物を使ったお話を見る。 ③ 再現遊び(呼びかけに応じてバスに乗る)をする。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	本単元では、小学部1段階の国語科「身近な人の話しかけに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じること」、算数科「具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること」の項目を扱っている。 そのため、触ることができる立体的な「おべんとうバス」を作成し、お話に出てくる具体物を使って言葉が表す事象を体験したり、興味をもって具体物を見たり触ったりできるようにした。 具材は児童が注目できる大きさや色で作成し、卵パックや新聞紙、クッション、ボール、洗面器など様々な感触の素材で作ることによって、感触の違いに気付けるようにした。 また、おにぎりの中身やブロッコリーの粒を取り外したり、卵焼きを巻いたりして、それぞれの具材で遊び、児童が興味をもてるように工夫した。
授業を終えて	・大きく、色あざやかに作ることで、どの児童にとっても気づきやすく、提示されたり触れたりしたときには表情の変化が見られた。 ・おべんとうの具材を様々な感触の素材ですることにより、興味をもって触ったり、好きな感触を見つけて自分から手を伸ばして触ろうとしたりする姿が見られた。 ・児童が乗ることができるおさんぽ車を使ってバスを作成することで、再現遊びでは、実際にバスに乗ってお話の内容を体験することにつなげることができた。

中学部の概要

1. 在籍生徒数 計19名（うち訪問6名）

（令和6年12月1日現在）

学 年	通 学	訪 問	合 計
1 年	3名	3名	6名
2 年	3名	2名	5名
3 年	7名	1名	8名

2. グループ編成

中学部に在籍している生徒の身体障がいの状況は多様である。指導にあたっては、一人ひとりの生徒の実態把握を行い、保護者をはじめ関係機関と連携しながら個別の教育支援計画を作成して取り組んでいる。また、一人ひとりの指導目標、指導内容及び指導方法を明確にした個別の指導計画を作成して、指導方法を工夫している。重複障がいのある生徒の指導については、個別課題の指導と自立活動の時間における指導との密接な関連を図りながら、発達段階別に5グループに編成し、学習課題への取り組みを行っている。今年度の生徒は海・虹・星の3グループに所属し、教科に応じて2～3カ所へ分かれて授業を行った（体育は全体授業）。

①自立活動を主とする教育課程（海グループ）

重複障がいがあり、自立活動を主として指導する。

②知的障がい代替による教育課程（虹グループ、夢グループ）

重複障がいがあり、教科学習と自立活動の内容を指導する。

③下学年による教育課程（星グループ）

重複障がいがあり、各教科・科目の目標及び内容の一部を下学部・下学年の当該各教科・科目に相当する目標及び内容の一部に替えて指導する。

④各教科による教育課程（宇宙グループ）

中学校学習指導要領に準じ、当該学年の目標及び内容を指導する。

3. 各グループの学習目標

（海） 健康を維持し、向上するための習慣を身につける。

他者からの働きかけを受け入れ、応答したり、発信したりする力を養う。

（虹） 友だちとの活動を通して、コミュニケーション能力を高める。

人や物への関心を高める。

自己表現、自己選択する力を養う。

（夢） 生活に根ざしたさまざまな活動を通して、自主的・自立的な生活習慣や態度を養う。

（星） 下学年の教育課程の授業を通して、教科学習の力を高める。

（宇宙） 中学校に準ずる課程の授業を通して、教科学習の力を高める。

4. 日課表

	月	火	水	木	金
1	自立活動（星グループは授業）				
2	グループ 学習	グループ 学習	グループ 学習	グループ 学習	グループ 学習
3					
4	摂食指導（星グループは5限授業）				
5					
6	個別課題 （自立活動）	特別活動 ・ 道徳	全体での 学習	グループ 学習	総合的な 学習の時間
7					

「バウンスオフ」

教科・授業名	サークル活動
対象児童・生徒	小・中・高等部 スポーツレクリエーションサークル 9名
ねらい	・他学部・他学年の友だちとかかわり、交流を深める。 ・チームで協力して取り組む達成感を味わう。
学習内容	① チームをつくる。(本授業では3チーム) ② お題の形を決める。 ③ チームで交互に箱の中にボールを落とし、お題の形を目指す。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	「バウンスオフ」 ボールを投げ、最初にお題の形と同じ並び方になるように箱に入れたチームが勝利となる対戦ゲームである。 もともとはテーブルゲームだが、大きい箱を床に並べて取り組むことで肢体不自由のある児童生徒でも取り組みやすくなった。 ・大きくすることによる利点 ① 箱の位置が低くなり、ボールが大きいので投げ入れるだけでなく板を使って押し出したり、スロープで転がしたりとボールの入れ方のバリエーションが増える。 ② 360度どこからでも投げ入れることができる。 ・工夫した点 ① チームごとにボールの色を分け、どのチームの形なのかわかりやすくする。 ② ボールが落ちないように壁をつくる。
	 ※写真は中学部合同授業のもの
授業を終えて	・他学部にわたり、さまざまな児童生徒が、自分にできる方法で参加することができた。 ボールがバウンドして箱に入るため、大人でも任意の箱に入れることが難しく、そのため、実力差がなくなり、楽しむことができた。   

「人形劇に挑戦しよう」

教科・授業名	みるきく
対象児童・生徒	中学部 2・3学年 海グループ 7名
ねらい	- 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりする。 - 指導者の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振りなどで表現したりする。 - 身近なものを表す言葉に対し興味を示したり、意思を表出したりする。
学習内容	①物語の内容、登場人物について ②準備（パペット作り・役作り） ③人形劇に挑戦
教材・教具の紹介 （工夫した点）	- 劇の題材は、たくさんの生き物が出てくる絵本「もぐらバス」。 - 人形は生徒たちが操作感を味わいやすく、視界に入りやすいパペット型を選択。   - パペットの素材は身近にあって加工しやすく、操作しやすい軽い素材の封筒を選択。  
授業を終えて	- 生徒たちでパペットを作成したことで、それぞれの個性あふれるパペットが完成した。 - 読み聞かせるだけでなく、実際にパペットを操作して物語を演じさせたことで、触覚・視覚・聴覚を刺激し、より物語のストーリーやキャラクター、セリフなどに興味関心をもたせることができた。 ○反省点 - セリフも生徒で作成（スイッチに録音等）もしくは、選択できればより興味関心をもたせることができたのではないか。 - 人形作成に時間をかけすぎ、本来のねらいとするところに重点的に時間をかけることができなくなってしまった。 （簡素化できたポイント→パーツを用意しておく等）

「防災（火災）について知ろう」

教科・授業名	総合的な学習の時間
対象児童・生徒	中学部 海・花グループ 10名
ねらい	・火災時の避難についての注意点を知り、防災頭巾を実際につけてみる。 ・初期消火の方法を知り、実践する。
学習内容	①災害時に頭を守ることにについて学ぶ。 紙芝居「だいじだいじ」の読み聞かせから、災害時には頭を守る必要があること、そのために防災頭巾を着用することについて知る。 防災頭巾体験として、実際に一人ずつ防災頭巾を手にしたり着用したりする。 ②初期消火活動について学ぶ。 衣服に火が燃え移った際の初期消火の方法「ストップ、ドロップ&ロール（動きを止め、その場に倒れて転がる）」について指導者の実演動画を視聴する。 模擬消火体験として、折り紙製の火模型を衣服に貼りつけて、上記の消火方法を実践し、火模型を外すという取り組みを行う。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・各活動に見通しをもつことができるように、見たり聞いたりする活動を行ったあと、実物や模型を使って触れたり身体を動かしたりする体験型の取り組みへと進むようにした。 ・粗大運動を得意とする生徒が多く、本人らの動きをいかした活動を取り入れた。 ・視覚的にわかりやすく、衣服につけたまま転がった際も危険ではないように、火模型を折り紙で作り、弱粘着テープで衣服に貼り付けた。 紙芝居 「だいじだいじ」 教育画劇／本校図書室所蔵 折り紙製 火模型 11 cm×15 cm程度 火模型
授業を終えて	体験型の学習が効果的であるが、火災については実際に体験することは難しく、実感を伴った経験知識は乏しくなりがちである。どのような形でよく似た体験ができるか模索し、実際に行われている消火方法「ストップ、ドロップ&ロール」の実践にたどりついた。 次時には、「避難誘導の標識について知り、標識を探して進む体験をすること」を目標に、避難誘導標識について学習した。本時の学習を踏まえて、防災頭巾を着用したうえで、模擬標識を探しながら避難経路を順路通りに進むという体験も行った。

「スパイダーでの補助具の活用」

教科・授業名	自立活動 からだ
対象児童・生徒	中学部 海グループ 7名
ねらい	・ストレッチ等で十分に身体を動かしたり、リラックスしたりする ・座位・膝立ち等の姿勢の保持力やバランス力を身につける ・全身の粗大な感覚運動を通してボディイメージを身につける
学習内容	① 全身のストレッチ ② 座位・膝立ち等の保持・バランス練習 ③ スパイダー、エアトランポリン等
教材・教具の紹介 (工夫した点)	○スパイダーでの補助具使用の取り組み例 I. ベルトやクッション(小ボール)の使用 ・足が内に入る場合 →外転位に保持 ベルト：a クッション(小ボール)：b II. ロールクッションの使用 ・上体が前に倒れる場合 →胸にかけて後方にゴムで引っ張る：a ・頭を反らす場合 →頭の後ろにかけて腰ベルトの前金具にゴムをかける：b III. 頸椎バンドの使用 ・首のすわりが不十分な場合 →頸椎バンドを上方から引っ張る
授業を終えて	スパイダーの取り組みの中では、個々の筋力や筋緊張の程度、運動機能面等の違いに応じ、各生徒に必要なと思われる補助具を活用することで、より楽に姿勢保持ができたり、普段できない動きをすることができたりするなど、取り組みの幅が広がった。 今後も各生徒に対して、補助具などのよりよい使用方法を検討するなどして、自立活動のからだの指導に取り組んでいきたいと思う。



I a

I b



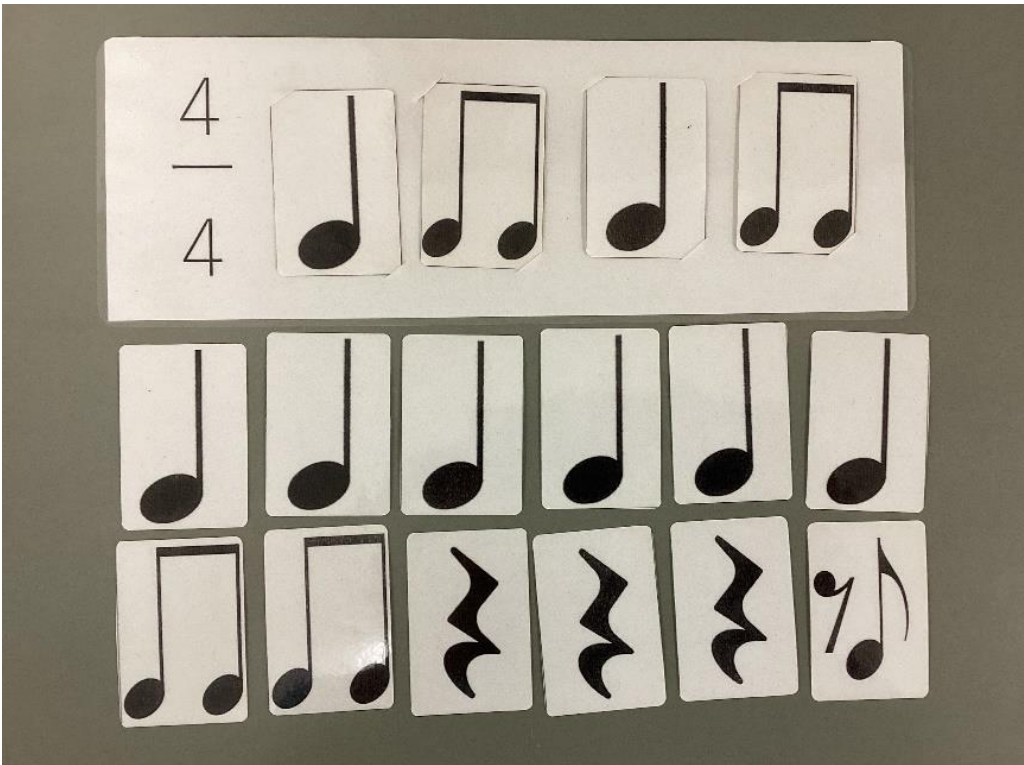
II a

II b

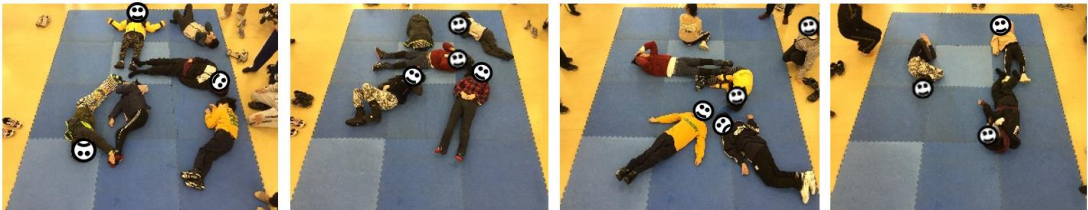


III

「リズムの作曲」

教科・授業名	音楽
対象児童・生徒	中学部 虹・星グループ 7名
ねらい	・ 音符、休符を選択して作曲する。 ・ 作曲したリズムをみんなで演奏する。
学習内容	① 音符、休符の種類を知る。 ② 言葉をリズムに合わせて演奏する。 ③ 自分で作曲する。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	 ・ ラミネートした1小節のシートに切り込みを入れて音符、休符カードを差し込めるようにしている。 ・ すべてが休符にならないように休符のカードの数を調整した。 ・ カードをランダムに4枚選ぶことでリズムを作曲できる。1人1枚ずつカードをひいてリズムを作曲するなど、いろいろな用途でリズムの作曲ができる。
授業を終えて	・ 音符、休符の学習や言葉をリズムで表す学習などでくり返し活用することで生徒がイメージするリズムを作曲することができた。 ・ 音符、休符をイメージしにくい生徒でも楽しんで作曲していた。 ・ 自信をもって作曲したリズムを演奏していた。

「おかえりの人文字をつくろう」

教科・授業名	美術
対象児童・生徒	中学部 1・2年生 12名
ねらい	・修学旅行から帰校する3年生に「おかえり」のメッセージをおくる ・友だちと協力して一つのものを作り上げる楽しさや達成感を味わう
学習内容	①人文字について説明する。 ②提示された文字カードを見て、作る文字を確認する。 ③友だちや指導者と相談し、担当する文字や役割を決める。 ④モニターを見て位置を確認しながら、マットの上で横になったり、座ったりして、人文字をつくる。 ⑤できあがった人文字を指導者の合図で撮影する。 ⑥撮影した写真を鑑賞する。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・使用教室にあるアコーディオンカーテン用のレールの支柱にタブレット用の固定アームを取り付けることで、上からタブレットで撮影ができるようにした。 また、タブレットからコードをつなぎ、モニターに撮影画面を映すことで、自分の位置や文字の形を確認できるようにした。 支柱にタブレット用の固定アームを取り付けて撮影した。 
授業を終えて	・生徒と指導者、全員の協力のもと「おかえり」の人文字を撮影することができた。身体を曲げたり、腕を広げたり、座位をとったりと、生徒それぞれができる身体の動きを活かして文字を作ることができた。 

「水や湯を使って体験しよう」

教科・授業名	生活体験
対象児童・生徒	中学部 虹グループ 3名
ねらい	・身近にある水や湯で、科学的な体験をする。 ・描いたり、切ったりするなど道具を使用する。 ・安全に気を付けながら活動に取り組む。 ・訪問籍の生徒に向けて、動画を撮影し交流する。
学習内容	・体験・制作（A：水蒸気で動くセロファン／B：水中エレベーター） 教科書「ちょこっとできるびっくりあそび1 みずのふしぎあそび」 ① 授業内容の説明 → ② 制作 → ③ 制作したものを使用して活動→ ④ 訪問籍の生徒へクイズの出題
教材・教具の紹介 （工夫した点）	A：水蒸気で動くセロファン ① いくつかのイラストから描きたい絵を選択する。 ② セロファンにペンで絵を描き、ハサミで切る。 ③ 安全に気を付けながら、洗面器に湯を入れる。 ④ 湯をはった洗面器の上にタオルをセットし、セロファンを置いて、動きを見る。 B：水中エレベーター（浮沈子） ① セロファンに絵を描き、自由に切ってペットボトルに貼る。 ② しょうゆ入れの魚の容器をペットボトルに入れて、どうしたら動くのかを考える。 ③ ペットボトルの側面を押したときの様子を見る。 ④ しょうゆ入れの容器に磁石をつけて沈め、沈んでいる磁石（モール）にくっつけるゲームを行う。 まとめ／訪問籍の生徒への動画撮影 ① 取り組んだことをクイズにして動画撮影。 ② 訪問の担当教員に動画を渡し、訪問授業で動画鑑賞。
授業を終えて	・絵を描くときや貼るときなど、自由な発想で取り組むことができた。セロファンの動きや浮沈子が動く様子をよく見ていたり、何度も取り組んだりしようとする様子が見られた。 ・1人ずつ前に出て行く機会をつくり、人前で発表する経験を積んだり、友だちの取り組んでいる様子を見たりした。 ・訪問籍の生徒へクイズを出したり、様子を見たりすることで、同じグループの友だちと一緒に取り組んでいるという意識が少しもてたのではないかなと思う。またクイズの動画を撮影することで、授業を振り返るよい機会になったと考える。 ・改善点としては、訪問籍の生徒が取り組むことができる教材は訪問授業内でも取り組んだが、他にもいくつか準備できればよかった。



「廃材利用（ペットボトルキャップ）」

教科・授業名	自立活動（手・コミュニケーション）
対象児童・生徒	中学部 虹グループ 3名、星グループ 3名 他
ねらい	・ペットボトルキャップのつけ外しをすることで手指の巧緻性を高める。 ・色の弁別をし、マッチングする。
学習内容	① ペットボトルキャップを外す。 ② 12個のキャップと同じ色の土台を1つずつ探す。 ③ 4面あるので、本体の向きを変えて同じ色の土台を探しながらキャップをつける。
教材・教具の紹介 （工夫した点）	・立体になっていることで、自分で工夫して本体の向きを変えながら、キャップの色を探せるようにした。 ・似たような色も混ぜることで見比べることができるようにした。 ・ペットボトルのキャップを再利用することで、自分でペットボトルのキャップを開けられるように楽しみながら練習ができればよいと思い作った。 ・キャップを外す、つけるなど、一連の動きを繰り返し練習できるように1面に3つの課題設定とすることにした。 ・実施は片手で持ち上げて、片手でつけ外しを行ってもよいし（下右図）、机に置いて両手を使ってつけ外しをしてもよい。（下左図） ・色の弁別が難しい生徒については、本体を握る、持ち上げる、キャップを掴むなど課題を絞って臨機応変に使うことができる。   
授業を終えて	・キャップのふたをつける、外すと工程を分けることで、どちらの作業の方が得意かが分かりやすくなった。 ・友だちや先生と時間を競うことで、集中力を高めて活動に参加することができた。 ・時間を記録しておくことで、自分の前回のタイムを超えられるようにしようと集中する気持ちや、友だちとタイムを競う中でどうすれば早く正確にやりやすくなるか考えながら活動に取り組むことができる。 

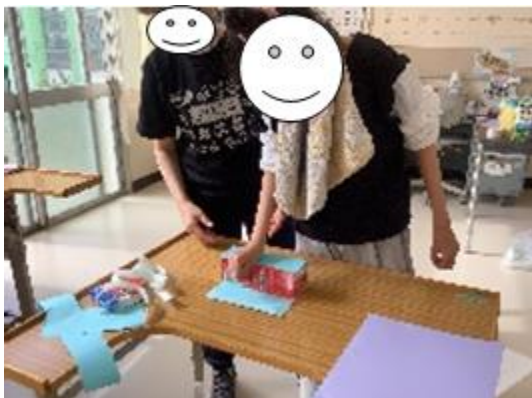
「相撲」

教科・授業名	体育
対象児童・生徒	中学部 全グループ 13名
ねらい	・相撲のルールなどを知る。 ・相撲の楽しさや感じたことを表現する。 ・簡単なルールや指示を理解し、指導者と協力して安全に楽しみながら相撲をすることができる。
学習内容	取り組み（試合） ・ボール落とし ・カ士に模したクッションチェアを押し出す
教材・教具の紹介 （工夫した点）	ボール落とし <u>ルール</u> 斜面台の上からボールを落とし、ボール同士をぶつける。先に土俵から相手のボールを出す。または、土俵に自分のボールが残っているほうが勝ち。  相撲の取り組みが難しい生徒にどう相撲に取り組ませるかを悩み、大きなボールがぶつかるイメージが、カ士のぶつかり稽古に似ていることからこの方法を考えた。手で押す、紐を引き、箱を開けてボールを落とす、SRC-W に紐をつけて引っ張るなど生徒によってさまざまな方法で行った。 カ士に模したクッションチェアを押し出す <u>ルール</u> 生徒ごとに重さや距離を変えながら、どちらが速くカ士を押しながらゴールできるかを競争する。押すことができる生徒は低い姿勢になるクッションチェアを使用した。  クッションチェアに先生や生徒を乗せて押すことで重さを変えた。 ・交代で行司をする。「西（しこ名）、東（しこ名）はっけよーい、のこった。」「押し出し。」などを言う。
授業を終えて	ボールを落としてぶつくと迫力がありよいのだが、タイミングを合わせないと上手くぶつからない。また、土俵内でぶつかって片方は残る、片方は出ることがなかなかできなかった。設定やタイミングが難しい。 押せる生徒もカー杯押すという経験をしたことがないので、いい経験になった。 相撲という国技に少しは興味をもつきっかけになったと思う。

「パフォーマンス書道」

教科・授業名	国語
対象児童・生徒	中学部 星グループ 3名
ねらい	・自分の役割を理解し、活動できる。 ・友だちと話し合い、テーマや曲、書く文字などを決めることができる。 ・自分の考えや思いを文章にして、相手に伝えることができる。
学習内容	① テーマや曲、書く文字、レイアウト、振り、台詞について話し合う。 ② 自分に合った書く方法を考える。 ③ 音楽に合わせて実際に取り組む。 ④ 感想を伝え合う。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・テーマや曲、書く文字、レイアウト、振り、台詞など構成を生徒たちで話し合っ 筆に軽い素材の棒をつけ、車いすに座ったまま書くことができるようにした。 ・3人で「挑戦」という文字を完成させることで、自分の役割を意識し、連帯感を高められるようにした。 ・テーマとなる文字は、太い筆に持ち変えて目立つようにした。
授業を終えて	・3人で1つの作品を協力して完成させることができた。発表する場を設け、他の生徒や教員に向けて発表することができたため、一層達成感を感じられていたように思う。書字に対する苦手意識が強かった生徒が、振り返りの際に「またやりたい。」と発表する姿が見られた。

「ジェンガを作ってみよう」

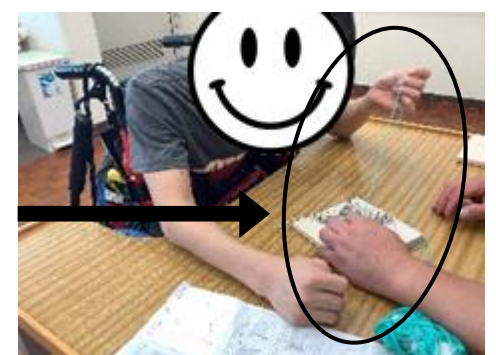
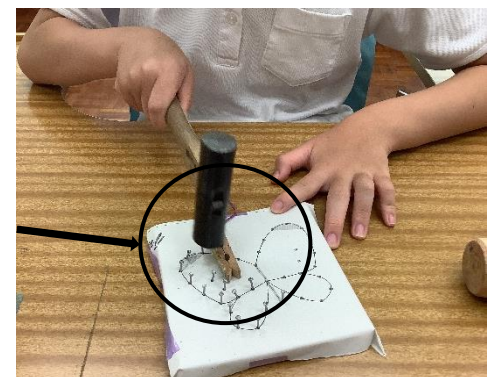
教科・授業名	しるつくる
対象児童・生徒	中学部 海グループ 7名
ねらい	・自分にあったはさみを選択し、画用紙を切る。 ・ゲームの際には自分の動きでジェンガを取ることができる。 ・安全に気を付けながら活動に取り組む。
学習内容	・体験・制作／ジェンガ作り ① 授業内容の説明 ② ジェンガ作り ③ ジェンガ体験
教材・教具の紹介 (工夫した点)	ジェンガ作り ① いくつかの色画用紙から使う画用紙を選択する。 ② 使いやすいはさみを選択し、画用紙を切る。 ③ 切った画用紙を牛乳パックに貼る。 ④ シールなどを貼ってデコレーションをする。 ジェンガ体験 ① 持ちやすい棒を選択する。 ② SRC-W や立位台の姿勢でもジェンガが取れるように棒の長さを工夫する。  
授業を終えて	・画用紙やシールを選ぶ際は二者択一で選ぶことで、生徒たちは好きな色の画用紙やシールを選ぶことができた。 ・本人にあったはさみを選択することで、はさみを使う際に力を引き出すことができる。 ・シールが外れないように透明テープを貼ったことで滑りが悪くなり、体験の時にジェンガが取りにくくなった。 ・ジェンガが取りやすいように、棒だけでなく紐なども用意する必要がある。

「水を使った音を楽しもう」

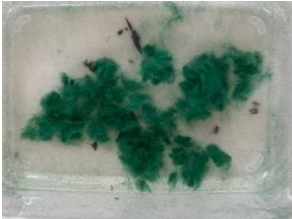
教科・授業名	音楽
対象児童・生徒	中学部 海グループ 12名（訪問生5名含む）
ねらい	・楽器を揺らして鳴らし、音を楽しむ。 ・対象物を見て触れる。
学習内容	①ビー玉つき手袋もしくはバチを使って缶に触れて音を鳴らす。 ②好みの音楽を見つけ、それに合わせて楽しく楽器を鳴らす。 ③素手で直接缶に触れ、缶同士をぶつけるように動かし、音を鳴らす。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	カンカラウォーターベル ・はじめはキャスター付きのハンガーラックに吊って使う予定だったが、複数の缶をハンガーに吊っているので、ハンガーのまま使用の方がそれぞれの生徒にあわせたセッティングができた。初回以外、ハンガーラックは使用しなかった。 ・中に入れる水の量を調節することで、音階も作ることができる。(少しわかりづらさはある。) ・缶によってはフィルム包装のものがあるので、剥がすことで音の響き方が少し良くなる。 ・紐やオーガンジーをゴムにくくりつけて、引っ張って鳴らすことができるようにもできる。  ※水を使った楽器を使用したいと思い、「日立」のホームページに行きつき、この楽器を作るに至った。  
授業を終えて	・音階の音は、水を調整してみてもはっきりとした音程に合わせることは難しかったが、水が揺れる音が心地よく、面白い音が鳴る楽器である。 ・訪問授業にも持ち運びやすく、ハンガーを使えば場所を問わず活用できた。 ・ゴムで吊っていて揺れるのも面白く、自活のとりくみとして「手で触れる」、「引っ張る」、などの課題にも活用できそうだと感じた。

「ストリングアート」

教科・授業名	職業 技術科
対象児童・生徒	中学部 1・2年 星グループ 3名
ねらい	・木片や釘などの材料に興味をもち、様々な活動を試み、楽しむことができる。 ・釘打ち方法を理解し、金槌の適切な使用方法を身に付けることができる。 ・糸を緩めないように、張りを意識しながら糸を掛けるようにする。
学習内容	① 木版の裁断（線通りに裁断する、サンドペーパー仕上げ） ② 釘打ち（四ツ目キリで下穴を開ける、垂直に釘を打つ） ③ 糸掛け（糸の緩みに注意する）
教材・教具の紹介 （工夫した点）	・生徒にあった作業環境を整えながら切っているときは、切り口を見て、まっすぐ切れているか確認しながら行い、のこぎりを動かす際は、引くときに軽く力を含め、押し戻すときには力を込めすぎないように言葉かけをした。 （練習では柔らかい木材を使用した） ・小さな金槌では釘を打ちにくいので、大きな金槌を選び、重いと感ずるくらいのもので使用した。釘を打つ前に四ツ目キリで下穴を開け、釘が曲がりやすいため補助具のウッドピンチのくぼみに釘を挟み、固定することで釘を持たずに安全にできるようにした。 ・糸掛けは一度だけだと全体的にぼやけた作品になってしまうため、できる限り何度も行うようにした。複数回同じ釘に糸を掛けるときは、その都度同じ高さで統一するときれいに見えるようになった。糸はたるまないようにピンと張り、きれいに仕上げるように角度や向きにも対応できるように言葉かけをした。
授業を終えて	・道具の使用においては、基本操作の定着に向け、道具の握り方、身体の位置、視線を向ける場所などを確認しながら行った。 ・練習を行うことで、本番の工程では自信をもって取り組むことができた。



「スチレン版画・たこ焼き」

教科・授業名	美術 B
対象児童・生徒	中学部 虹・星グループ 6名
ねらい	・スチレン版画の工程を理解する。 ・美術を通してたこ焼きづくりを経験する。
学習内容	①スチレンボードに模様を描く。(竹串など) ②ローラーでスチレンボードに絵の具を付ける。 ③画用紙に刷る ④トッピングをする。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・スチレンボード ・毛糸 ・段ボール ・竹串 ・ローラー ・筆 ・絵の具 ・画用紙 ・フレンチボトル ・木工用ボンド ・水 ・スチレンボードを使用することにより力の弱い生徒でも模様を描くことができる。 ・実際にたこ焼きを作る工程を取り入れた。特にトッピングの作業では、ソースやマヨネーズに見立てるために絵の具に木工用ボンドと水を入れたもので作った。出来上がった物をフレンチボトルに入れてかけた。      トッピング材料   毛糸を切ったもの 段ボールを切ったもの
授業を終えて	・たこ焼き作りを意識するために、香りで雰囲気づくりをしてみてもよかったと思われる。(たこ焼きソースなど) ・青のりに見立てた緑色の毛糸がパラパラとした感じがなかったので、素材の工夫が必要。 ・竹串の持ち手の工夫が必要であった。

高等部の概要

1. 在籍生徒数 計20名（うち訪問生2名）

（令和6年12月1日現在）

学 年	通 学	訪 問	合 計
1 年	5名	0名	5名
2 年	9名	1名	10名
3 年	4名	1名	5名

2. グループ編成

肢体不自由教育部門高等部には、訪問学級生徒2名を含め、20名の生徒が在籍している。生徒の身体障がいや発達段階は様々である。学習指導にあたっては、生徒の個別課題に応じて6つのグループに分け、生徒の実態に合わせた授業展開を行っている。今年度はDとFグループの生徒がいないため4つのグループに分かれて授業を行っている。

① 自立活動を主とした教育課程（A、Bグループ）

重複障がいがあり、自立活動を主として指導する。

② 知的障がい代替による教育課程（C、Dグループ）

重複障がいがあり、教科学習と自立活動等の内容を指導する。

③ 下学年による教育課程（Eグループ）

重複障がいがあり、各教科・科目の目標及び内容の一部を下学部・下学年の当該各教科・科目に相当する目標及び内容の一部に替えて指導する。また、自立活動の内容も指導する。

④ 各教科による教育課程（Fグループ）

高等学校学習指導要領に準じ、当該学年の目標及び内容を指導する。

3. 各グループの学習目標

（A・B） 快・不快などの自分の意思を、表情や声などで表出する。

様々な活動を通して、五感に働きかける経験をし、自分の好きな活動を楽しむ。

身体機能の保持・増進を図り、体験的な活動を通して経験の幅を広げる。

（C・D） 生活に必要な様々な知識を身に付け、伝える力を高めるとともに、適切に活用する能力と態度を育てる。

（E） 教科学習を行うとともに、他の様々な活動を行うことによって、自主的・自立的な生活習慣や態度を養う。

（F） 高等学校に準ずる課程の授業を行い、教科学習の力を高める。

自主的・自立的な生活習慣や態度を養う。

4. 日課表

令和6年度 東住吉支援学校 高等部 時間割 (A部門)

	月					火					水					木					金				
	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
1	朝の会					朝の会					朝の会					朝の会					朝の会				
2	個別	個別	個別		社会	個別	個別	個別		個別	個別	個別	英語		理科	個別	個別	個別		個別	個別	個別			情報
3	はたらく	ことば・かず	職業			手・コミュ	はたらく	国語		国語	音楽		家庭科		生活	手・コミュ	生活		数学	美術	生活	算数			英語
4																									
給食・昼休み																									
5	からだ	美術	音楽			H R					ことば・かず	からだ	美術		体育	保健体育		総合的な探求・ サークル活動							
6																									

「和太鼓のパフォーマンスから、ひがすみ音頭につなげよう」

教科・授業名	音楽
対象児童・生徒	高等部 C・E グループ 4名
ねらい	・和太鼓の奏法を知る ・友だちとタイミングを合わせて演奏する
学習内容	① 連打する人と1打する人を決める ② 各々練習をする ③ 連打から1打まで通して、ひがすみ音頭につなげる（ドコドコ・・・ドン!）
教材・教具の紹介 （工夫した点）	11月に行われた、PTA 秋祭りで踊る「ひがすみ音頭」の冒頭で、和太鼓パフォーマンスを行った。 複合的なリズムを演奏することが難しい生徒も、連打や1打のみといった比較的簡単な演奏に取り組むことで、達成感を味わうことができると考えた。また、大勢の前での演奏となるので、本番（パフォーマンスとして）を意識した練習ができた。   
授業を終えて	生徒たちは、PTA 秋祭りでの発表を意識して、一生懸命練習していた。また、始まりの掛け声から、ひがすみ音頭へ繋がる部分の動きなど、生徒同士でも相談しながら活動することができた。

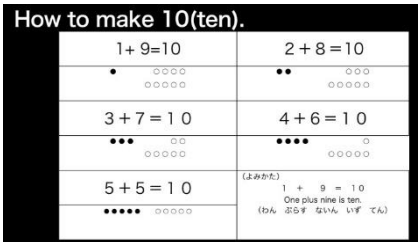
「触れて、渡して、遊んでみよう」

教科・授業名	手・コミュニケーション
対象児童・生徒	高等部 Aグループ 7名
ねらい	・硬い、柔らかいなどの様々な素材に触れ感触を楽しむ。 ・手の感触を味わう活動などを通して快・不快の気持ちを表出する。 ・名前を呼ばれて返事や気持ちを伝えることができる。 ・様々な活動を楽しむ。
学習内容	①触れてみよう（BOX から様々なボールを取り出す） ②渡してみよう（ボールを渡す→スイッチを押して→「どうぞ」） 受け取ってみよう（ボールを受け取る→スイッチを押して→「ありがとう」） ③遊んでみよう（スイッチを使用してじゃんけんゲームをする）
教材・教具の紹介 （工夫した点）	① 「触れてみよう」BOX の中にぶつぶつしたボール、ベタベタしたボール、柔らかいボール、光るボール、音の鳴るボールなど様々なボールを入れる。 （BOX の中から動物の声が聞こえたり、温かい風を感じたりできるように、スピーカーやドライヤーをセットし、気持ちを表出させやすくする。）  ② 「渡してみよう、受け取ってみよう」ボールを渡したり、受け取ったりするときにスイッチを使用して「どうぞ」「ありがとう」と相手に気持ちを伝える。  ③「遊んでみよう」①「グー」②「チョキ」③「パー」のスイッチや天板につけるパネルなどを準備する。   ・スイッチを押すために生徒に合わせて①Aスペックスイッチ、②BQ スwitch、③Cストリングスイッチなどを準備する。  ① A ② B ③ C
授業を終えて	・BOX の中からボールを取り出すときに動物の声が聞こえたり、温かい風が出たりすることで活動に興味を持ったり、快・不快の気持ちを表出したりすることができた。 ・スイッチを押し、相手に気持ちを伝えることができた。 ・スイッチを押し、じゃんけんゲームを楽しむことができた。

「ひも結び名人になろう」

教科・授業名	自立活動
対象児童・生徒	中学部 2年
ねらい	• 手指の巧緻性を高める。 • いろいろな結び方ができるようになる。 • 靴ひもを自分で結べるようになる。
学習内容	① いろいろな結び方を知ろう。 ② いろいろな結び方に挑戦してみよう。 ③ 靴ひもチャレンジ！！
教材・教具の紹介 (工夫した点)	• 紐の色を変えることで、視覚的にわかりやすくした。 • 印をつけることで輪の大きさをわかりやすいようにした。 • youtube でいろいろな結び方の手順をみながら、繰り返し取り組めるようにした。 https://youtu.be/hfTrOKQtJxs 特別支援教育「ひも結び名人」 saitama citypr
授業を終えて	動画を見ながら取り組むことが難しく、教師が「ばってんして」「くるっとまわして」「うさぎの耳」など、理解しやすい言葉かけを行いながら取り組むことで徐々にできるようになっていった。蝶々結びに挑戦した時には、輪がゆるくなりやすく苦戦したが、輪っかを作る位置や指で押さえる位置に印をつけることで、きつく結べるようになった。

「英語でカードゲーム」

教科・授業名	外国語（英語）
対象児童・生徒	高等部 Cグループ 3名
ねらい	・簡単な英語表現を身に付ける。 ・英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
学習内容	① “Count the numbers”：1 から20までの数唱を歌に合わせて学習する。 ② “How to make 10”：10になる数の組み合わせの英語表現を学習する。（ex: One plus nine is ten. One add nine equals ten.） ③ “Let’s play the Game”：“Pig Ten”をプレイしながら、ゲーム進行する中でさまざまな英語表現を学習する。 ※「Pig Ten」はZoch社/Ayelet Pnueli 作のカードゲーム。場の数と出す数の合計が10になるようにしながら、カードをたくさん手に入れることを目指すゲーム。 
教材・教具の紹介 （工夫した点）	授業はiPadを使用し、keynoteでTV画面に授業の流れや写真・図・動画を表示して確認できるようにしている。 ① 数をかぞえる英語の歌は、YouTubeにたくさんあるので生徒の興味関心に応じていくつか選曲しておき、生徒に選択させた。 （ex:セサミストリートのCounting Song） ② TV画面に10を作る数の組み合わせと読み方例を表示し、ゲームの進行中も表示し続けていつでも確認できるようにした。  ③ “Let’s do it!” “It’s your turn.” “Do you have ___?” “Pick one card.” “Yes! You did it!” “Good Choice!” etc… ゲームの進行中にかける言葉は、繰り返し簡単な英語を用いて場の雰囲気盛り上げるようにした。
授業を終えて	この学習グループにおいて、10の合成・分解はやや難しめの課題ではある。（数学では10までの数列などに取り組んでいる）しかし、繰り返し取り組む中でゲームを理解し、TV画面に映し出されているヒントを頼りに自分で考え、ゲームに参加する姿を見ることができた。楽しみながら取り組んでいるときには、間違いをあまり意識することなく「やってみよう」「英語で言ってみよう」と積極的な姿勢が多く引き出せているように感じる。

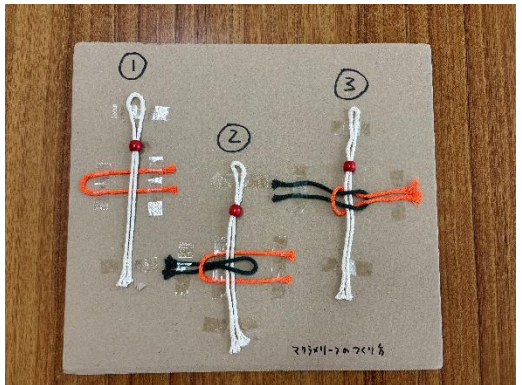
「自分の体を理解するための工夫」

教科・授業名	理科（生物）
対象児童・生徒	高等部 Eグループ 1名
ねらい	基礎的な生命を維持する働きについて理解する。
学習内容	- ヒトの生命活動と健康の維持 - ヒトの生命現象 DNA
教材・教具の紹介 （工夫した点）	【教材・教具】 - 保健室前に掲示している『中学保健ニュース』。（以下『保健ニュース』） （内容は、『腎臓の状態を調べる尿検査』—健康診断特集—） 【活用した理由】 - 生物では、生命を維持するための各々の内臓の働きを学習している。さらに理解を深めるため、校内に掲示の『保健ニュース』に着目した。特に健康診断特集では、体のことを身近に感じられ、生徒自身で興味を持って健康管理につながる内容であったため活用した。 【活用方法】 『保健ニュース』の模式図や説明文を参考にして、空欄のある文章を作成してプリント化した。生徒は、最初に、授業の復習で穴埋め問題に取り組み、次に『保健ニュース』の掲示場所に行って正誤を自分で確かめるようにした。 【生徒の様子】 - 課題を出してすぐに穴埋め問題に取り組み、保健室前掲示の『保健ニュース』を見つけ、正誤を確かめて課題を提出した。 【考察】 - たまたま尿検査の時期と重なり、また、タイムリーに腎臓に関わる健康被害についての報道があった。腎臓はどのような働きをする重要な臓器であるかを学ぶよい機会であった。授業は勿論であるが、他の情報で腎臓についての知識を補い、自分なりに整理することは、今後主体的に健康維持について考え、活用していくと考える。
授業を終えて	授業中、人体模型を使って腎臓の場所や働きについて、頭では理解できてもどこか他人行儀のようであった。一般的な腎臓の働きは、本人の体内でも同様に働いていると実感しにくいと思うが、意識するようになったら嬉しい。



※参考画像：「保健ニュース」HPより引用

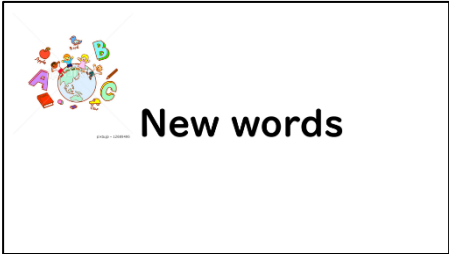
「マクラメリーフ」

教科・授業名	家庭科
対象児童・生徒	高等部 C・E グループ 4名
ねらい	- マクラメひもを使ったひもの編み方を習得する。 - 自分好みのひもの色を選び、オリジナル作品を作る。
学習内容	- 糸の長さを測ったり、はさみで切ったりする。 - 基本の結び方を学び、生活を豊かにする作品づくりに取り組む。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	- 好みのひもの色を選ぶ。 - 芯の長いひも 50～60cm (1本) と短いひも 15cm (24本) の長さにはさみを使って切る。 - 芯となる長いひもに短いひもを基本の結び方で繰り返し取り組む。 24本結び終わったら、葉っぱの形になるように丸く切る。  
授業を終えて	- ひもの長さを測ったり、揃えたり、自分たちで準備することから行った。 - はさみを切ることが上手な生徒も、ひもを切るという作業は紙とは違った切りにくさがあり、苦戦する様子も見られた。 - マクラメリーフは基本の結び方をマスターすれば、繰り返し取り組む手作業なので、見通しが持ちやすく、取り組みやすい教材である。

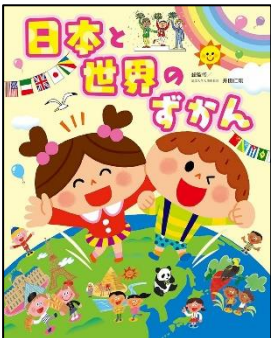
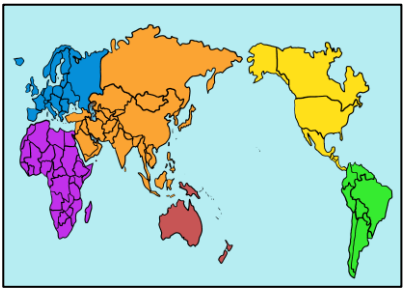
「風船バレー」

教科・授業名	体育
対象児童・生徒	高等部 全学年
ねらい	・ゲームの楽しい雰囲気を楽しむ。 ・風船を指導者と一緒に相手コートへ返すことができる。
学習内容	① 円陣バレーで練習し、ラリーを続ける。 ② キャプテンを決めて、ポジションやサーブの順番、作戦会議を行う。 ③ 試合を行う。 ④ 試合結果を確認し、良かったところを聞く。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	○障がいの状況がそれぞれ違う生徒たちが一緒に活動できる内容である。 試合中には音楽をかけ、風船が来ていない時も楽しい雰囲気を感じることができるように工夫している。 風船がコート内に上がった時には、チーム内で必ずだれが打つのかを声掛けをすることで生徒も顔を上げて風船を追いかけることができる。 ・指導者と一緒に風船を打ち返せるように道具を準備する。 ①基本  ②軽量のもの  ③様々な長さのもの 
授業を終えて	・キャプテンを決めて作戦会議の時間をとることで、チームとしての意識が芽生え全員が試合に参加することができた。 ・道具を準備することで普段では届かないところの風船を打ち返すことができスーパープレイが出るがあった。 ・試合結果やよかったプレイを最後に発表することによって、生徒が目立つことができた、拍手をもらったり、うれしそうな表情を見ることができた。

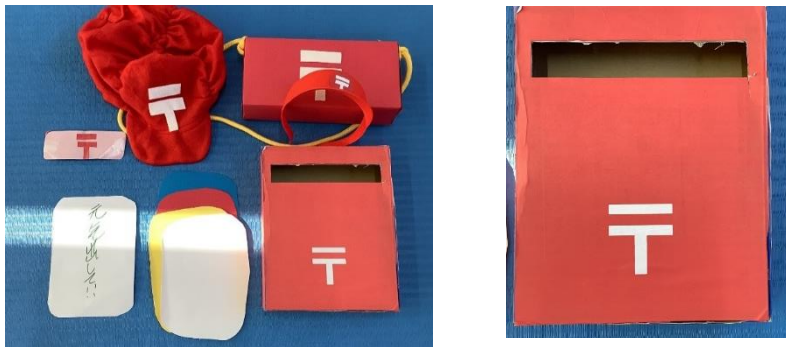
「新出文法と単語の導入」

教科・授業名	英語								
対象児童・生徒	高等部 E グループ 1 名								
ねらい	・新出文法の習得 ・新出単語の習得								
学習内容	①新出文法の導入（不定詞の副詞的用法）「～するために〇〇する。」 ②新出単語の導入								
教材・教具の紹介 （工夫した点）	〔新出文法の導入から問題演習まで〕 ①生徒が <u>興味を持っていること</u> に関連づけて発問する。 例）「 <u>なんのためにゲームをしますか？</u> 」 生徒からは「楽しむため」等の返答がある。 ②プリントを使って文法体系を解説 ③学習及び習得した文法を使って T-NET と会話活動 〔新出単語の導入〕 ①プレゼンテーションソフトを提示して発音練習（下図参照） ②宿題で単語の書き取り練習を実施 ③単語テストを実施（10 問）  <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">skate</td><td style="padding: 5px;">ski</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">ride</td><td style="padding: 5px;">sing</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">practice</td><td style="padding: 5px;">enjoy</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">leave</td><td style="padding: 5px;">eat</td></tr> </table>	skate	ski	ride	sing	practice	enjoy	leave	eat
skate	ski								
ride	sing								
practice	enjoy								
leave	eat								
授業を終えて	文法学習は導入時の部分を最も工夫した。文法の理論を教える以前に個々の生徒が興味のあることと関連づけて発問したり、英文に入れたりした。生徒が授業内容に飽きずに学習できるように生徒理解を重視した上で授業を行った。 単語学習は ICT 機器を活用して授業を行った。プレゼンテーションソフトを使うことで、板書する時間の代わりに、生徒が単語を見たり発音したりする時間として多くとることができた。								

「この食べ物はどこからきたの? ~Ver.寿司~」

教科・授業名	生活
対象児童・生徒	高等部 Cグループ 3名
ねらい	・日本と他の国々との関わりについて知る。
学習内容	① ICT 機器を使い、食材（寿司のネタ）がどこの国から輸入されているのか調べる。 ②表にまとめる。（輸入量が多いベスト3の国） ③調べた国を地図から探し出す。
教材・教具の紹介 （工夫した点）	①ICT 機器を使い食材（寿司のネタ）がどこの国から輸入されているのか調べる。 ※入力の方法等、生徒の実態に合わせる。 ②表にまとめる。（輸入量が多いベスト3の国） （えび）輸入国トップ3 ①インド ②ベトナム ③インドネシア  → フォーマットに ・タイトル ・調べた国名 ③調べた国を地図から探し出す。  ← 教科書（チャイルド本社）を使用。教科書が地域別になっているので、世界地図と照らし合わせる。 
授業を終えて	・他国との関りがわかるように、身近なものを題材にして授業を行った。 ・文字だけを頼りに地図から国を探し出すことが難しかったので、国旗カードと教科書を活用した。 ・日本と他国の位置や距離関係が一目でわかるように世界地図を使用した。 ※授業ではなじみのあるメルカトル図法の地図を用いたが、厳密に距離関係を比べるのには地球儀や正距方位図法の地図を使用するべきであった。

「職業体験」

教科・授業名	生活
対象児童・生徒	高等部 Bグループ 7名
ねらい	・郵便局の仕事を知る。 ・自分の気持ちを声や身振りで伝えようとする。 ・身近な人と手紙を用いて関わろうとする。
学習内容	①郵便局に行ってはがきを買ったこと、郵便局の仕事を復習する。 ②「こんにちは」「どうぞ」などの言葉を意識して、郵便局員と客のロールプレイに取り組む。 ③郵便配達員のロールプレイに取り組む。ことば・かずの授業で作成した顔写真付きの手紙を配達する。 ④活動の感想と頑張ったことを教員と一緒に発表する。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・ポスト 3個 ・表札(顔写真付き) ・「ことば・かず」の授業で作成した手紙 ・郵便局員のロールプレイ用の帽子、カバン、腕章 ・はがきの注文票 ポストの上に設置した表札は、顔写真のマッチングができる生徒がグループに多く在籍していたため、名前ではなく顔写真を貼った。 はがきの注文票に関しては、実際に郵便局に行って買い物をした際に見たものと似たものを作成し、使用した。 活動の際には見通しをもって取り組むことができるように、郵便局に行った際のことを振り返ったり、指導者たちが見本を見せたりした。 
授業を終えて	・はがきの売買の活動の際、自分が郵便局員を演じているのか、客を演じているのかももっとわかりやすく提示できるように、スライドや教具を工夫する必要があったと感じた。 ・授業の最後に振り返りをするのではなく、活動を終える度に行うべきだった。 ・写真のマッチングができる生徒が多くいたため、スムーズに授業が進んだが、自分が書いた手紙を郵便配達員になって配達をしていると実感するためには、もっと丁寧に説明し、繰り返し活動に取り組む必要があると感じた。

「和が39のパズルについて樹形図を利用して解く」

教科・授業名	数学
対象児童・生徒	高等部 Eグループ 1名
ねらい	・場合の数の考え方を学ぶ。 ・数学で学んだことが身近に利用できることを経験する。
学習内容	① 場合の数（樹形図）の考え方を使得ってパズルを解く。 ② 小道具を作り、試行する。
教材・教具の紹介 （工夫した点）	〔教材〕実教出版「高校数学 A」の教科書2ページ目に掲載されている『「39」のパズル』。 ① それぞれの樹形図をすべて書き、あてはまらないものを除外していく。 ② 視覚的にも考えやすくするため、問題を写した台紙と数字の駒を作った。 図1 図2 パズルは、教科書には、図1を含めて2パターンが掲載されていて、図2が出題されている。半円を組み合わせた複雑な形になっており（図1参照）、それぞれの弧上の数字を足して39になればよい。生徒には、一つずつ取り出して考えればよいとアドバイスした。弧ごとに考えて「1、5、3、〇、〇、〇、6」「3、5、〇、〇、〇、2」「1、〇、〇、〇、〇、3」「6、〇、〇、〇、〇、2」の4つについて、それぞれ樹形図を作り、和が39になる組み合わせを選別していく。
授業を終えて	上記のパズルは、数学の紹介が目的であるためか、教科書には、答えや解き方は記載されていない。しかし、生徒が興味をもったので、解くことにした。本来、日常生活では、数学の知識を利用しているものばかりだが、目に見えて実感できるものは少ない。今回のものは、パズルのようなものであるため、特別な場でしか利用していないが、学んだことを利用したという経験を得るには、十分有効であると考え。膨大な作業になったが、やっていくうちにパターンが読めていき、その「読める」という感覚を味わうことができたようでよかった。対象生徒は、教員を負かすほどオセロが強く、パズルやゲームが好きであるため、楽しんでいるようであった。 その後は、空白に当てはめる数字を決めるため、「4、7、8、9、10、11、12」の駒を作り、当てはめながら、答えを導き出すのだが、樹形図であらかじめ数パターンにしぼられているので、5分とかからず解けた。直感で数字をあてはめて偶然できるのではなく、数学的にパズルを解く経験をさせることができた。

「プレゼンテーションを楽しもう」

教科・授業名	情報
対象児童・生徒	高等部 3年 Eグループ 1名
ねらい	・情報生活に親しむ。 ・パソコンを能率的に活用する。
学習内容	・座学における基礎知識を学ぶ。 ・文書処理アプリケーションを使えるようにする。 ・表計算アプリケーションで関数を扱えるようにする。 ・プレゼンテーションアプリケーションを使いプレゼンテーションができるようにする。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・実教 最新情報Ⅰ 教科書 ・日本情報処理検定協会 文書入力スピード 日本語 ・日本情報処理検定協会 表計算 ・日本情報処理検定協会 プレゼンテーション ・全国商業高等学校協会 ビジネス文章実務検定試験  (1)  (2)  (2) (1) 生徒用 PC の横の見やすい位置にモニター専用 PC を設置する。 (2) 指導順に従って各ファイルを整理して展開する。 (3) 教科書および認定（検定）参考書以外は全てファイルで保存する。 (4) 座学と実技の授業を平行して展開する。 (5) 座学では身近な範例を使いながら説明をする。 (6) キーボードを正確に入力するためにタイピング練習に打ち込む。 (7) 表計算における関数の授業では認定（検定）参考書を活用する。 (8) プレゼンテーション指導ではテーマと発表時間を設定して展開する。
授業を終えて	限られた時間内での座学と実習を並行して授業をした。 座学では教科書を基本に情報モラルと著作権について学習をした。 実習では通信文章、表計算、プレゼンテーションを学習した。 表計算では関数を使って計算処理をすることができた。

「自由に、ダイナミックに描こう」

教科・授業名	美術
対象児童・生徒	高等部 C・E グループ 4名
ねらい	- 自分の得意な表現方法を見つけることができる。 - 道具の特性を理解し、表現方法にあった道具を選ぶことができる。
学習内容	①図形、文字、線、風景など自分が表現したいことを選び、模造紙に描く。 ②色鉛筆、クレパス、各種マジック、絵の具などで着色する。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	- 対象のグループの生徒たちは、腕や手の動きに制限のある生徒が多く、作品が小さくなりがちになると感じた。しかし一人ひとり、多様な方法で自分を表現することができることから、一年間かけて、模造紙に思い思いに自分の好きな物、形を描くことで大きな一枚の作品を制作させる課題に取り組んだ。 「好きに描いていい。」と伝え、戸惑う生徒も多いので、事前に好きな物や、得意な表現方法を調べておいて、声かけをするとスムーズに制作に取りかかることができた。 - 制作に使う道具を変えることで、文字だけ描いていた生徒が模様のような図形を描いたり、苦手な道具に挑戦したりする様子が見られ、表現の幅を広げることができた。 - 模造紙をホワイトボードに貼る、画板で傾ける、机上に置くなど、制作しやすい姿勢を考えて制作に取り組むことで、作品の見え方に変化がうまれることもあった。 - 大きく腕を動かすことで、線を横に描く、縦に描く、丸を描くなど、様々な描写に挑戦することができた。 - 一見何を表現しているのか分かりにくい作品でも、生徒と題名をつけることで、作品に意味をもたせることができた。
授業を終えて	どうしても「もっとこうした方がいい。」と声をかけなくなるが、生徒の感性、好きな色、形、できることを信じて制作させることも大切だと改めて感じた。また時間をかけて一つの作品を制作する大切さを感じた。



「オリジナルだるまづくり」

教科・授業名	美術
対象児童・生徒	高等部 A・Bグループ 各7名
ねらい	・紙粘土の感触を感じよう。 ・だるまに関する文化について知ろう。 ・霧吹きを使い方を知ろう。
学習内容	① だるまについて説明。(縁起ものである由来、目入れの文化について) ② 紙粘土をこねる。 ③ 土台を新聞紙で作り、紙粘土を貼り付ける。 ④ 顔部分をマスキングし、下地の色を筆で塗る。 ⑤ 霧吹きを使って絵具を吹きかけ、模様をつける。 ⑥ 顔を描く。 ⑦ 願い事を考え、左目を描く。 ⑧ ニスを塗る。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・霧吹きで着色する際、飛び散り防止のためアクリル板を立てて作業を行った。友だちが作業している様子をみんなが安全に見ることができた。 ・願い事をしながら左目を描き、願いが達成されたときに右目を描くという文化を印象づけるために、一人ずつ前に出て発表しながら目を描いた。
授業を終えて	・完成まで様々な工程があり、一つの作品で丸める、こねる、塗る、描くといった、様々な作業に取り組むことができた。 ・霧吹きを使い方を体験してもらうことが目的の一つにあり、一人ずつ時間をかけてゆっくりと取り組んだ。レバーに指をかけ、教員が言葉かけをしながら一緒に引くことで、霧吹きを使い方をイメージしやすいようにしたが、霧吹きを動かすだけの力を籠めることが難しい生徒がほとんどで、軽い力で使える霧吹きがないものかと感じた。一般的な霧吹きでも、加工をすれば弱い力で使いやすくないか検討が必要である。

「自分たちで作った商品を販売しよう！」

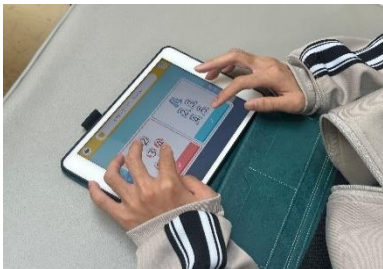
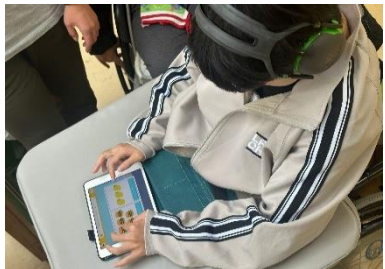
教科・授業名	職業
対象児童・生徒	高等部 C・Eグループ 4名
ねらい	・自ら考え、発信する力を培う ・制作手順を理解し、一人でできることを増やす ・卒業後の進路を考え、はたらくことの楽しさや達成感を感じる ・友だちを意識し、協力して作業に取り組む
学習内容	☆進路にむけた取り組みとして1年間で商品制作から販売まで実習的な学習を行った。子どもたちが働いて対価を得るという経験ができるように1年間の学習設定を行った。 C・Eグループは「布染め、縫製」班として取り組んだ。授業では、毎回、30分は座学、生徒たちと話合う時間とし、残り時間を作業時間にあてた。（話し合いや座学のみでは、集中できない生徒がいたため）話し合いは、どんな意見でも、二者択一でも、友だちの真似でもなんでもいいのでとにかく「少しでも自分で考える」「みんなの前で発表する」ことに重きを置いた。 最終的にはA・B・C・Eグループ全員で協力して商品の包装シールや店の看板などを作成し、販売学習として保護者や教員に合同で商品を販売した。 ①商品の制作と販売の流れ、売買の手順を知る。会社の名前を考える。 ②布染めの方法を知る。商品用の布を染める。 ③どんな商品を作って、誰にどうやって売るか考える。 ④染めた布で商品作り。 ⑤販売準備（宣伝方法を考える。ラッピング、シールやタグ作り）と販売。
教材・教具の紹介 （工夫した点）	①「みんなで会社（工房）を作ろう！」 A、B、C・Eグループのみんなで協力して販売を行うことを目標にし、まずはそれぞれの会社（工房）の名前を考えた。実際の企業名を調べて各々が発表し、どんな名前をつけるか考える課題とした。最終的には候補にあがった名前の中から高等部全員の生徒、教員にアンケートを行い、決定した。 ②「布を染める」 市販の染粉を使用した。水のみでしっかり染まるものを使い、布は教員の家庭で不要になった布をリサイクルした。最初は「板締め絞り染め」の方法で行ったが、途中からスプーンやスポイトを使って染液を布にかける方法にすると、ほとんどの生徒が一人でできるようになり、少しの介助のみで作業を進められるようになった。 ③「商品開発と市場調査」 布染めと並行して、どんな商品を作るか、誰に売るかを考える話し合いを行った。それぞれ、「家族。」「お母さん。」「校長先生。」「〇〇先生。」「看護師さん。」など意見を出すことができた。次は、どんな商品が作れるか、タブレットで検索するなどし、作りたいもの、作れそうなものを発表した。それらをまとめた後、どんな商品が売れるか知るため、「市場調査」を行った。ペアで分かれて、どんな商品ならお金を出して買ってもいいと思うかアンケートを取りに行き、報告会を行った。その結果を発表し合い、表にすると「鍋つかみが人気があった」「トートバッグが欲しい人が一定数いた」

	などがわかり、何をどれだけ作るかを生徒たちも理解しやすくなった。 ④布製品はミシンを使って制作した。介助のいる生徒もいるが、「自分のできることをできるところまでする」「難しいところはできる人がやる」ようにし、分業制で完成させた。 ⑤チラシやテレビCMなど、商品の宣伝方法を伝え、自分たちで宣伝方法を考えた。チラシ作りに決め、写真撮影、タブレットで編集、加工、印刷という風に進めた。商品の包装や陳列状態なども話し合い、確認して決めていった。
授業を終えて	今年度は、子どもたちが働いて対価を得るという経験を少しでもできたらと思って取り組んできた。1年間という長期的な取り組みのため、焦らずに余裕を持って制作や話し合いが行えたことは良かった。商品作りは順調に行え、C・Eグループの生徒については、一人でできることも増え、集中して取り組む様子が見られた。（生徒が夢中で取り組むあまり、気づいたら大人が手助けせずとも一人で作業できていた、ということもあった。）最終的に販売して得た収益は全員での買い物学習に使った。高等部として、卒業後の進路に向けて「はたらく」「職業」の授業の取り組みを充実させ、今後につなげていくために担当者間で今年度の反省を行い、次年度以降も持続可能な取り組みは何か、販売学習という形が適切かどうか見直しを行いながら今後も続けていきたいと考える。 布染め商品：鍋つかみ（教員のリクエストにより、商品化した。） 布染め商品：ペットボトルホルダー （市場調査の際に集まった意見を元に商品化した。） 布染め商品：香り袋（ひのきの香り、靴や靴箱に入れて使用。） 応用して巾着袋も制作。大小サイズあり。

「よく聞いて、見て、答えよう」

教科・授業名	国語
対象児童・生徒	高等部 Cグループ 3名
ねらい	- 画面に映した色をよく見て、間違わずにカードを上げることができる。 - 指示をよく聞いて取り組むことができる。
学習内容	① 指導者が指定した色カード（赤、青、黄、黒、緑）を上げる。 ② 電子黒板に写した文字のカードを上げる。 ③ 電子黒板に写した文字の色カードを上げる。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	5色の色カードを、セットにして渡す。 ●色の確認：ウォーミングアップ 赤、青、黄、黒、緑のカード 指定した、カードを1枚ずつ手に持ってあげる。 ●電子黒板に写し出された画面をよく見る。 ●文字のカードを選ぶ。 - 例① きいろの文字で画面に表示→その場合は、<u>きいろ</u>のカードをあげる ●文字の色カードを選ぶ。 - 例② あかと画面に表示している→みどりであかと表示→その場合は、<u>みどり</u>のカードをあげる。 ●5色の色カードには<u>ない</u>色が出てくる。<u>ない</u>場合は、口頭やタブレットを使って、そのカードの色がないことを伝える。 例① 例②
授業を終えて	- 文字のカードを選ぶのは、スムーズに取り組むことができた。 - 文字の色カード（例：画面には、文字は【あお】と書いているが赤色で表示。その場合は<u>赤の色カード</u>を上げる）をあげる時に、言葉の色のカードを挙げてしまうことがあったが、繰り返し行っていくうちに、惑わされないで取り組めるようになった。 5色のカード以外の色を画面に提示した場合も、最初は戸惑っていたが、よく見て「ない」ことをそれぞれ自分の方法で伝えることができた。 「見て」「聞いて」とそれぞれ集中して取り組むことができたので、別の方法で今後も行っていきたい。

「数の大きい・小さいを考えよう」

教科・授業名	算数
対象児童・生徒	高等部 Cグループ 3名
ねらい	- ものの順序や個数、大小について数を用いて表現する。 - 算数の楽しさを実感し、学習に関心を持って取り組む。
学習内容	①数唱をする。 ②ブロックを使って、数の大・小を答える。 ③アプリを使って、数の大・小を答える。 ④すごろくをする。（2個のサイコロを使用する）
教材・教具の紹介 （工夫した点）	○ことばや数字のみでの理解は難しく、意欲・集中力が継続しないため、作業やタブレット教材を使用し、ゲーム感覚で興味・関心に繋げた。 数字のみでの大小の比較が難しいため、ブロックを使用した。    ・算数アプリ「すくすくプラス」（ぴよログ）を使用した。毎時間 10～15 分間、ゲーム感覚で取り組んだ。一番子どもたちに適した内容だったと感じる。    ・すごろくでは2つサイコロを使用した。大きく、やわらかいものにして、転がしやすく見やすいようにした。2つのすごろくを見て数の大きい方を答え、駒を進めるようにした。 
授業を終えて	ことばや数字を見ただけでの理解は、反復学習をしても難しさを感じた。算数教材や子どもたちに身近にあるタブレット教材を使用することで、興味・関心が沸き、意欲・集中力に繋がった。また考える機会を多く作ることで、正答率の増加に繋がった。

訪問教育の概要

1. 在籍児童・生徒数

○通年在籍児童・生徒

(令和6年12月1日現在)

	在 宅	フェニックス	合 計
小学部	5 年 1 名	6 年 1 名	2 名
中学部	2 年 1 名	1 年 3 名 2 年 1 名 3 年 1 名	6 名
高等部	2 年 1 名	3 年 1 名	2 名

○短期在籍児童・生徒 わかば（施設訪問）

(各月の延べ在籍数 令和6年12月1日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小学部	7	7	8	9	1	6	6	7	5
中学部	0	0	3	3	1	1	1	2	2

2. 本校の訪問教育について

本校では、家庭で授業を行う在宅訪問と、医療機関や入所施設で授業を行う施設訪問による指導を行っている。施設訪問は、大阪発達総合療育センターの3階にある医療型障がい児者入所施設（主として重症心身障がい児）のフェニックスと、2階にある医療型障がい児入所施設（主として肢体不自由児）のわかばで授業を実施している。わかばは手術やリハビリで入院をしている期間が在籍期間となる。そのため在籍期間が短く、在籍人数の変動が多い。在宅とフェニックスの訪問教育は小・中・高等部、わかばは義務教育である小・中学部のみが対象である。

在宅とフェニックスの授業は、マンツーマンで指導にあたっている。小学部は訪問担当の教員が、中学部と高等部は、学年の教員が授業を行っている。授業内容によって学部の教員が同行する「同行訪問」を行い、複数で指導する機会も設けている。始業式や終業式、修了式には管理職が同行する。

わかばの授業は、在籍児童・生徒の実態に応じて柔軟に対応している。自立活動を中心に学習するグループと、教科学習を中心に取り組むグループに分けて行っている。中学部の教科指導の場合は、訪問担当者に限らず学部内で該当教科の担当教員が訪問授業を行う応援体制を組んでいる。また、在籍児童生徒数に応じて授業枠を増やし対応することもある。

訪問学級の児童・生徒は、生活経験や外出の機会、日常的に関わる人の数が少ない場合がある。常に医療的ケアを必要とする児童生徒が多く、学習時の姿勢や教員が触れることのできる身体の部位も限られている場合もある。施設訪問では、授業で用いることのできる道具や素材に制限があるため、その都度、施設側に確認をしている。そうした環境の中で、教材教具を工夫し、豊かな経験を積むことを目指した授業を行っている。

3. スクーリングについて

個々の教育的ニーズに応じて保護者とともに学校に登校し、通学籍の児童・生徒とともに授業や行事に参加するスクーリングを行っている。スクーリングでは多くの人と関わる経験をしたり、集団活動のにぎやかな雰囲気味わったりすることができる。また遠足など、校外に出る行事に参加することで、さまざまな体験をすることができる。

今年度もスクーリングの実施計画を立てるにあたり、施設訪問生は大阪発達総合療育センターの規定により実施基準を設け、保護者と施設の判断で実施の可否をともに検討・実施した。運動会や文化祭などの行事や学

部の活動に参加することができ、友だちや指導者との交流を通して、たくさんの思い出を作ることができた。

スクーリングは、個々の実態によって、回数や時期、実施形態などさまざまな状況がある。今後も、各学部や訪問担当者間で協議・検討をし、保護者や医療機関、施設と連携を取りながらすすめていきたい。

4. ICT機器を使ったリモート授業

児童・生徒個々の状況から、家族や施設外の人との交流が限られている訪問生のために、学校と自宅、施設間とを通信機器を利用して繋ぎ、通学生や指導者とのリアルタイムでの交流を図っている。今年度もビデオコミュニケーションツールを使用し、授業やクラス活動にリモートで参加する体験をした。画面を通して互いの様子や頑張る姿などを見ながら、活動を楽しむことができた。今後も引き続き通信機器を利用した交流を続けていきたい。

5. 時間割

基本的には、1回2時間の授業を週3回行っている。在宅とフェニックスの授業では保護者や施設関係者と相談をし、児童・生徒の実態に応じた授業日・回数・時間を決定している。

【在宅】

		月	火	水	木	金
午前	小		児童 A		児童 A	
	中					
	高					
午後	小					
	中				生徒 B	
	高	生徒 C		生徒 C		生徒 C

【フェニックス】

		月	火	水	木	金
午前	小		児童 A		児童 A	
	中	生徒 B	生徒 C・生徒 E	生徒 B・生徒 D	生徒 C	生徒 D
	高		生徒 F		生徒 F	
午後	小					児童 A
	中	生徒 E・生徒 G	生徒 D・生徒 G		生徒 G	生徒 B・生徒 C 生徒 E
	高					生徒 F

【わかば】

		月	火	水	木	金
午前	小	わかば B		わかば A		わかば A
	中	わかば②	わかば①	わかば②	わかば①	わかば①
午後	小	わかば A	わかば B		わかば B	
	中				わかば②	

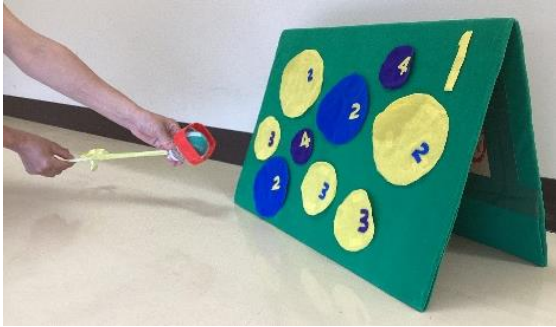
「おつきみ（染め体験）」

教科・授業名	ずこう
対象児童・生徒	小学部 訪問5年・6年 2名
ねらい	・染める体験をする。（玉ねぎの皮染め・コーヒー染め） ・進んで手を動かそうとする。 ・素材を貼ろうと手を伸ばすことができる。
学習内容	① ひものススキ（コーヒー染め） ② 布の満月（玉ねぎの皮染め）  
教材・教具の紹介 （工夫した点）	訪問生のため、あらかじめ持ち込む教材に工夫 ①小瓶に入れたコーヒーの粉と計量スプーン、お湯の入った水筒を用意し、持ち込む。気管切開の児童のため、コーヒーの粉はこぼれないようにチャック付きポリ袋の中でお湯と混ぜるようになる。 透明なので児童が過程を見ることができる。 ③ 玉ねぎの皮はあらかじめ1時間煮込んだものをペットボトルや透明の調味料容器に入れておく（赤い蓋）。また、ミョウバンを溶かしたものは蓋が色違いの容器に入れておく（白い蓋）。（道中こぼれないように、密閉容器に入れる。） ※ベッドや布団の横の狭い空間で授業を行うため、手順別に必要なものを袋に入れて使い方の説明文を貼り、番号をつけて順番に使用できるようにする。液を流せないためそのまま持ち帰るチャック付きポリ袋や密閉容器などを用意する。      ① コーヒー染め ②玉ねぎの皮染め 玉ねぎの皮を煮た液と ミョウバン液
授業を終えて	玉ねぎの皮染めやコーヒー染めは煮込んだり熱湯を用いたりする必要があるが、あらかじめ下準備することにより、時間短縮し、必要な行程だけを体験することができた。 病棟の児童は透明のチャック付きポリ袋を使用することにより、目で確かめたり、手で触れたりすることができた。 在宅の児童は行程ごとに袋にまとめて用意したため、必要なことをじっくり学習できた。

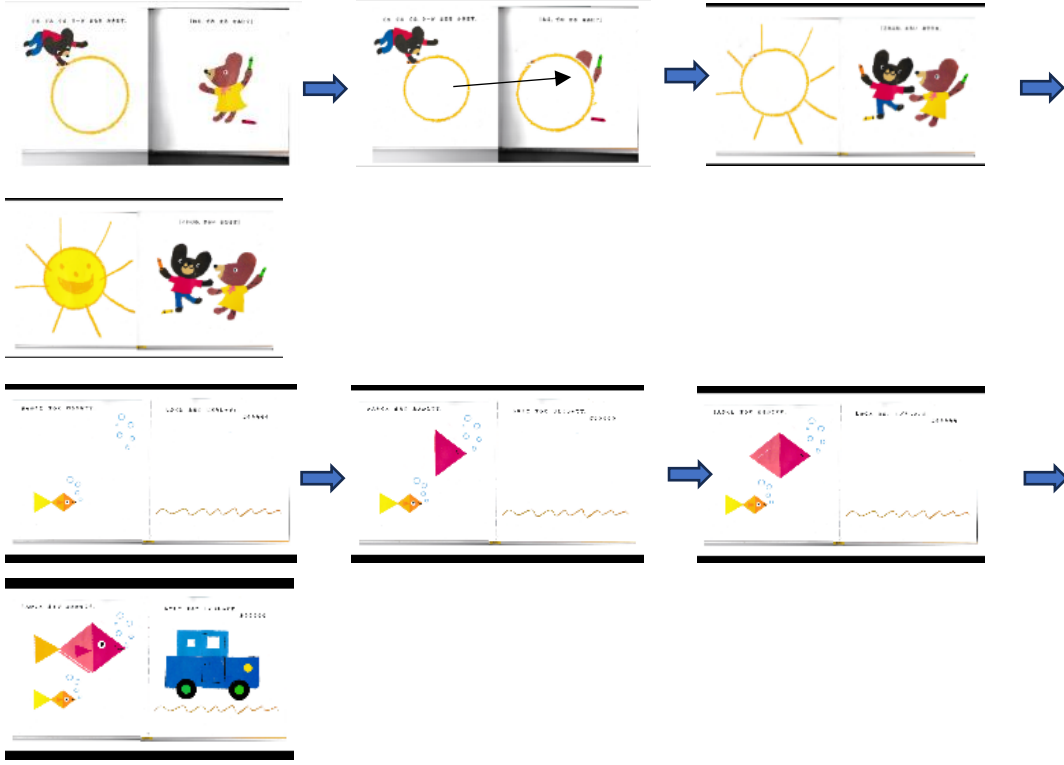
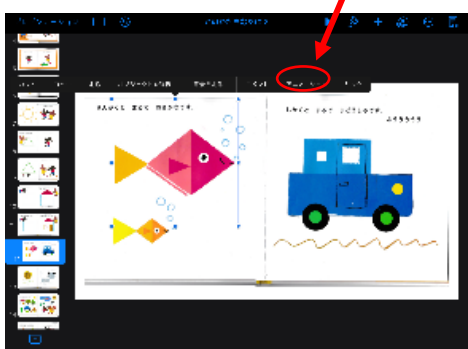
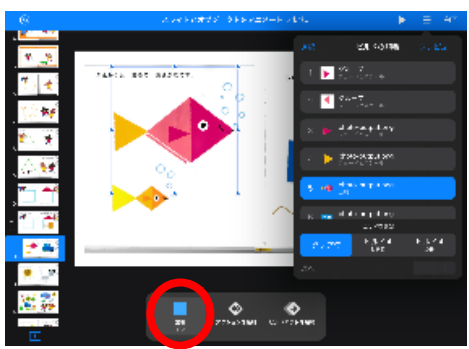
「いもいもほりほり」

教科・授業名	ことば・かず
対象児童・生徒	小学部 訪問4・5・6年 5名
ねらい	・ペープサートに注目して見る。 ・絵本「いもいもほりほり」を通して、いもほり体験をする。
学習内容	① ペープサートでお話を見たり聞いたりする。 ② 再現遊びをする。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	●ペープサート ペープサートの台…ホワイトボードの上に黒画用紙を貼って注目しやすいようにした。また、磁石だけではなくマジックテープでも使用できるようにマジックテープを黒画用紙の上から貼った。 ペープサートの位置…バギーや車いす、座位保持椅子等の角度を変えることができないため、児童が見やすい位置に設定する必要がある。2方向性クリップを使用し、児童の目線に合う高さに設定した。 ペープサート…つるには磁石をつけ、土の中の芋、ヘビ、もぐら、ダンゴムシにはクリップをつけることで、つるを引いたときにくっつき、出てくるようにした。 ●再現遊び (いもほり) 折り畳みのかごに茶色いビニール袋をかぶせて畑に見立て、その中に、つると繫いだ芋、ヘビ、もぐら(フェルト)、ダンゴムシ(ガチャガチャの容器)の模型を入れて取り組んだ。畑の位置も、児童の視界に入るように2方向性クリップを使用した。
授業を終えて	児童の目線に入る高さで提示することで注目しやすく、じっと見たり、目を大きくして見たりと興味を持って見る様子がみられた。再現遊びに使用した小物の素材を変えたり色や大きさを変えたりしたことで、視覚的情報を取り入れることに困難さがみられる児童もつるを引いた先の物の違いを感じやすくなり、さまざまな反応が見られた。

「的あて」

教科・授業名	たいいく
対象児童・生徒	小学部 訪問4・5・6年 5名
ねらい	- 球を飛ばすために、握る、引く、放す動作（一部でも可）をすることができる。 - 活動を通して友だちやチームを意識してゲームを楽しむ。
学習内容	① 球を飛ばすための、手の動かし方を教員と一緒に確認し、繰り返し練習をする。 ② 球を飛ばすための、一連の動き（握る、引く、放す）のなかで、何を頑張るか目標を決める。 ③ 的に向けて球を飛ばす。 ④ 得点を確認する。（得点表で友だちの記録も確認する。）
教材・教具の紹介 （工夫した点）	○ 体位や姿勢を変えることに制限がある在宅訪問生や施設訪問生の教材・教具はどの状況においても使用ができ、汎用性がある教材作りが必要である。 - 的はただで持ち運べるように、段ボールにマジッククロス（マジックテープをつけることができる布）を貼ったものにした（図①）。 - 発射装置はペットボトルとゴムを使い、<u>座位姿勢（図②）</u>や<u>仰臥位姿勢（図③）</u>など、どのような角度や高さ、向きにも対応できるようにした。 - 的の点数は状況に応じて貼り替えることができるようにした。 - 視覚的な支援が必要な児童には状況が分かるように、ボールに鈴を入れたり的につける点数に凹凸をつけたりした。 図①  図②  図③ 
授業を終えて	- どの児童も握る、引く、放すの動作から目標を絞り、それぞれの姿勢から球を飛ばすことができた。 - 友だちと個人やチームで得点を競ったり、リモートを通じて対戦をしたりすることができた。

「形に親しもう・このかたちなあに」

教科・授業名	せいかつ・ことば・かず
対象児童・生徒	小学部 訪問5・6年 2名
ねらい	丸、三角、四角の形に親しむ。
学習内容	絵本「このかたちなあに」(デジタル絵本)
教材・教具の紹介 (工夫した点)	○絵本「このかたちなあに」(ポプラ社)をスキャンし、Keynoteでデジタル絵本を作成した。 丸、三角、四角の形に注目できるように、動きをつけた。 - アニメーションの設定で、画面をタップするたびに、丸、三角、四角の形が順番に出るようにし、形が組み合わさっていることが確認できるようにした。  ○作り方 アニメーション をクリック   ビルドイン の動きを設定する
授業を終えて	指導者が絵本を指さすよりも、デジタル絵本の動きの方が、児童が注目している様子が見られた。

「かいものごっこ」

教科・授業名	せいかつ
対象児童・生徒	小学部 訪問3・4・5・6年 7名
ねらい	・ごっこあそびを通して、基本的な買い物の手順を知る。 ・指導者や動画を介して、店員とのやり取りを楽しむ。
学習内容	① 欲しいものを選ぶ。 ② レジでお金を払い、買った品物を袋に入れる。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	●品物について 年間を通して取り組み、学期毎に品物を変更していった。 1学期→文房具：ホッチキス、目玉クリップ、ボールペン、付箋等 2学期→台所用品：お玉、ボール、ざる、トンブ、泡だて器等 3学期→お菓子：スナック菓子、グミ、キャンディ、チョコレート等 視覚に問題のある児童が半数ほど在籍していたため、なるべく形状や感触に特徴や違いのある物を教材に取り入れた。お菓子はどの児童も興味があり、表情等によく表れていた。 ●内容について 訪問授業は基本的に1対1の授業になる。その中でどうすればやり取りができるか考え、店員役と買い物の見本役を、通学の先生に協力いただいて動画を撮影した。見本役の先生が買い物の手順を説明してくれるので、その後に続いて訪問教員が児童と一緒に商品を選んだり、財布からお金を取り出したりするなど、サポートしながら買い物に取り組んだ。以下の7つの工程に分け、動画通りに取り組むことで、買い物に関連した流れが全て網羅できるように実態に合わせて内容を考えた。 ●買い物の手順 ① 店内に入る。(BGMが流れて店員のあいさつ) ② かごをもらう。(訪問教員が渡す) ③ 品物を選ぶ。(実際に商品を並べる) ④ レジで品物を渡す。('ください。'と言う) ⑤ 財布からお金を出してトレイに入れる。 ⑥ レシートを受け取って財布に入れる。 ⑦ 品物をエコバックに入れる。 ☆よく見えるところにタブレットを設置し、項目ごとに動画を止めて一つずつ順番に取り組んだ。
授業を終えて	学習当時はコロナ禍ということで病棟への出入りが厳しく制限されていた。そんな中でも、いろいろな人と関わってもらいたくて先生方に動画出演をお願いした。タブレットを介してだが普段関われない先生と接する機会が作れたのが良かった。「今日はどの先生と買い物する？」など、指導者も楽しく授業に取り組めた。子どもたちも先生方の声をよく聞いたりタブレットを凝視したりする様子が見られた。



お客さん役(買い物の見本)の教員



店員役の教員

「カエルぴょんぴょん餌取り大会」

教科・授業名	3学部合同授業
対象児童・生徒	訪問生徒 7名（小学部1名、中学部5名、高等部1名）
ねらい	・他学部の児童生徒との交流を深める。 ・活動を通して友だちやチームを意識してゲームを楽しむ。 ・自分の思いを表現する。
学習内容	①各自事前に制作したカエルを発表する。 ②くじでチーム分けを行う。 ③チームで順番を決める。順次、発射台にセットしたカエルを飛ばすためにレバーを押し、獲物をねらう。獲物によって得点が変わる。 ④得点を集計して、チームの勝敗を決める。
教材・教具の紹介 （工夫した点）	① 発射台（図1）児童生徒がレバーを押しやすいように押す所を丸い形にした。 ② カエル（図2～4）児童生徒が各自授業にて制作 ③ チーム決めも楽しくできるようにガチャ容器を吊るして、児童生徒が選択。（図5） ④ 目的の獲物めがけて、発射台のレバーを押して、発射（図6、図7）
	図1  図2  図3  図4  図5  図6  図7 
授業を終えて	・どの生徒も自分なりの方法でレバーをしっかりと押して、カエルを見事発射させることができていた。 ・カエルが思わぬところに飛んだり、枠から転げたりなどのハプニングがあったり、またチーム対抗で得点を競ったりして、友だちと楽しく交流することができたのではないかなと思う。

「季節の行事体験」

教科・授業名	生活
対象児童・生徒	中学部 訪問2年 1名
ねらい	・秋の行事を経験し、季節を感じる。 ・自分なりの方法で他者に気持ちを伝える。 ・学部活動を知る。
学習内容	① 絵本「やきいもするぞ」の読み聞かせ。 ② さつまいもの実物観察と模型の制作。その作品を使っの「芋ほりゲーム」。 ③ 学部の芋ほりの様子を鑑賞する。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・週に1回の授業のため、順序だてて授業展開することにより、見通しをもって参加できるよう配慮した。 ・目を開けることがほぼ無いため、②の芋ほりゲームでは、引っ張る蔓の部分に異なる音色の鈴やさまざまな感触のモール等をつけることにより、自分自身でどのさつまいもを引っ張りたいか選択できるようにした。   
授業を終えて	・どの蔓を引っ張りたいか尋ねると、心拍の変動があり、選択する様子が見られた。対戦相手の指導者が何もついていない蔓を選び、2つの芋を引き当てた様子を感じると自分も何もついていない蔓を選ぶ場面があった。

「さざなみスティック」

教科・授業名	ふれる・つくる、みるきく
対象児童・生徒	高等部 訪問 1名
ねらい	・波に似た音を手作り楽器で奏でて、海を舞台とする絵本の世界を豊かに体験する。 ・様々な素材の感触を楽しむ。
学習内容	①段ボール紙や小豆など様々な感触を楽しみながら、手作り楽器を作る。 ②絵本「ざざーん ざざざざざざ ざっぱーん」を読み、波の擬音に親しむ。 ③絵本を読み聞かせしながら、手作り楽器で様々な波の音を奏でて楽しむ。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・訪問の授業で絵本「ざざーん ざざざざざざ ざっぱーん」(ひがしなおこ作くもん出版)を読み聞かせするときに、手作り教具で音を奏でる。豊かなことばで表現される波の音を、手作りのさざなみスティックを様々な動かし奏で、「ざざーん」や「ざっぱーん」や「ざざざざざざ」という音を聴き、聴覚で海の世界を感じる。 (用意するもの) 給食の牛乳パック2個、カラー段ボール紙、小豆、テープ、装飾用材 (作り方) ①牛乳パックの内周にカラー段ボールで作った四角柱を入れる。段になった部分が内側にくるようにする。 ②同様に、牛乳パックの外周に合わせた四角柱をカラー段ボールで作る。 ③右図のように内周と同じ大きさの筒が、外周と同じ大きさの筒に収納できるようにして、周りをビニールテープやアルミテープなど丈夫な素材で補強する。 ④キラキラした水面や、魚や海藻をイメージした素材で飾る。 ⑤中に小豆を入れ、筒の長さや小豆の量を調整して波の音を出す。
授業を終えて	・絵本を読むときに、波に近い音が出せるので、語りの声との違いをよく感じているようだった。 ・はじめは「ざー」という音があまり得意ではなさそうだったが、何回も聴くうちに慣れてきた。絵本の読み聞かせ以外に、心拍が高くなったときにも手作り楽器で波の音を聴くと心拍が落ち着くときもあった。 ・自転車で訪問の教材を持ち運ぶので、あまり長いものだと運びにくい、入れ子になるので持ち運びが便利だった。半面、持ち運びを意識せず、もう一回り長いものを作れば、もう少し大きく長い波の音が出せたのではないかと思った。

「作って、触れて、楽しむ」

教科・授業名	みるきく
対象児童・生徒	高等部 訪問 1名
ねらい	・様々な素材に触れ、感触を味わう。 ・お話を聞き、絵の感触を感じる。
学習内容	① 「はらぺこあおむし」の話を聞く。 ② 様々な素材に触れる。 ③ はさみ、ボンドなどを使い、絵本を作成する。 ④ 話を聞きながら、絵本での感触を楽しむ。
教材・教具の紹介 (工夫した点)	・「はらぺこあおむし」のCD ・いろいろな感触の材料を用意する。 ●発泡スチロール、モール、スポンジマット等 ・カスタネットはさみ、ボンドのチューブ、スティックのり等を握る、押す等の作業をする。 ・お話を聞きながら、絵本の凹凸や、手ざわりを楽しむ。    
授業を終えて	① 本人の好きな絵本を題材として選んだ。 ② 素材の手触りから、手を引こうとしたり、心拍数が変化したりすることがあった。 ③ はさみやボンドのチューブを握る動きがみられた。 ④ お話を聞きながら、絵の感触を感じとることができた。

お わ り に

この度は、実践教材集『東住吉』をご覧いただき、誠にありがとうございます。

本実践教材集は、日々の教育活動を振り返り、児童生徒の成長や、教職員の実践や教材を記録・共有することで、教育実践の専門性向上を目的として作成しました。特別支援教育においては、児童生徒一人ひとりの個性や特性を深く理解し、的確な実態把握を行ったうえで、可能性を最大限に引き出すための柔軟かつ創造的な取り組みが必要とされます。本校では、全教職員が協力し合いながら、子どもたちと真摯に向き合い、試行錯誤を重ねてまいりました。

本実践教材集には、教育実践の成果だけでなく、そこから得られた課題や学び、今後への展望も記録しています。特別支援教育の現場は、多様な教育的課題に直面する一方で、そこから新たな気づきが生まれる場でもあります。

私たちは、この実践教材集が同じ志を持つ教育関係者や保護者の皆さまにとって少しでも役立ち、特別支援教育のさらなる発展につながることを願っています。

最後になりますが、本校では、学校経営計画の重点目標のひとつに「1人1台端末利活用アクションプランに基づくICT機器を活用した授業づくり」を掲げております。一方で、本実践教材集をご覧いただきましたとおり、まだまだICT機器の活用ができておりません。具体物による教材とデジタルによる教材の両輪で、教育的効果を上げることができるよう、教職員一同全力で取り組んでまいりますので、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大阪府立東住吉支援学校 教頭 植野 耕司